

回数	開催月日	議 題	内 容
第5回	12月21日	1 今年度の保健師職能交流会について 2 会員増促進対策について 3 その他	講師の決定報告、役割分担 11月30日 国保連における状況確認結果報告 12月13日 千葉県看護協会会員増促進に係る打ち合わせ会報告 保健指導ミーティング報告に係る文書、アンケート作成
第6回	平成31年 2月24日	1 平成30年度保健師職能委員会活動のまとめ 2 その他	中間報告を基に、まとめについて協議し、平成31年度活動の方向性を検討した。 平成30年度保健師職能交流会（午後）の役割決定 令和元年度保健師職の集会講師が近藤克則先生内定を報告
第7回	4月22日	1 令和元年6月27日に実施する保健師職能集会について 2 令和元年度活動計画について 3 その他	総会の午後に開催する職能集会について、役割分担等行った。 保健師職能の課題を整理した。

#### IV 令和元年度 保健師職能委員会活動計画

項 目	内 容
活動目標	1 保健師が専門性を発揮し、効果的な保健活動が推進できるよう資質向上を図ると共に、ネットワークの拡大強化による地域包括ケアの充実を図る。 2 多様化する保健活動に寄り添うような活動を検討し、多くの保健師とつながることを目指しつつ、会員を増やすことで保健師職能の組織力（政策提言力）アップを図る。
委員会 開催予定	1 保健師職能委員会 年6回 2 三職能合同委員会 年1回
検討事項	1 保健師の職場環境の把握 保健師がその機能を発揮できているか。地域包括ケア体制整備への関わり方など 2 看護協会の魅力発信 看護協会ホームページの活用について（日本看護協会保健師職能委員会の動きや当職能委員会の活動報告、職能だよりの掲載など） 3 ネットワークの拡大強化 地域包括ケアの充実と保健師の役割、看護職間の連携強化 小児保健学会の座長の決定と参加
職能集会	1 前年度活動実績報告 2 日本看護協会保健師職能委員会活動報告 3 本年度活動計画について 4 講演会
交流会	1 活動領域を超えた保健師との交流会 2 講演会又はシンポジウム等 3 情報交換、ワールドカフェ
三職能 合同委員会	1 三職能共通の課題の検討 2 看護職の連携について

項 目	内 容
その他	日本看護協会 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 千葉県看護協会保健師職能委員会活動状況報告</li> <li>2 日本看護協会総会（全国保健師職能集会）</li> <li>3 都道府県保健師職能委員長会議 年1回</li> <li>4 地区別保健師職能委員長会 年1回</li> </ol>
	印刷物 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 保健師職能だより</li> <li>2 職能集会資料</li> </ol>
	その他 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 千葉県看護協会事業への参加・協力</li> <li>2 千葉県小児保健協会への参画</li> </ol>

# 助産師職能委員会

委員長 大澤 豊子

## I 活動目標

- 1 県民の安全かつ安心な妊娠、出産、育児を目指し、実践能力を高め、その専門性を発揮できるように支援する。
- 2 会員相互の情報交換を図り、県内産科医療施設間の連携を強化する。

## II 活動内容

### 1 産科管理者交流会

日 時：平成30年12月4日 10:00～15:00

場 所：千葉県看護会館中研修室

テーマ：「地域と病院の連携による子育て支援－病院の助産師が行う産後家庭訪問－」

趣 旨：平成30年度日本看護協会の重点政策・重点事業の一つとして「子育て世代包括ケアシステムにおける看護機能の強化」が挙げられている。具体的には、切れ目ない妊娠・出産・子育て支援に向けた地域との連携の周知と推進が求められており、連携に関する情報収集・情報発信への取り組みが必要と言われている。

今回、子育て支援包括センターの事業として、行政と医療機関の契約のもとに産後家庭訪問を実施している取り組みを紹介した。委託をうけ病院の助産師が地域に出て活動するまでの経緯、活動の実際など何うとともに、参加者の皆様と地域における連携・協働・助産師の実践・役割について考えていく機会とした。

内 容：シンポジウム、グループディスカッション

「医療機関と連携した妊娠出産包括支援事業の実際と子育て世代包括支援センターの設置に向けて～妊娠期から子育て期の家族を支えるために～」

勝浦市役所 介護健康課 健康管理係 保健師 鈴木ゆかり氏

「医療施設における産後家庭訪問への取り組み」

亀田総合病院 総合周産期母子医療センター 師長 鈴木あすか氏

「産後家庭訪問への取り組みの実際」

亀田総合病院 総合周産期母子医療センター 助産師 井上満未氏

参加者数：32名

<アンケート集計結果>

参加人数32名 アンケート回収数31（回収率96.8%）

#### (1) 年齢

20代	30代	40代	50代	60代以上
0	0	12	13	1

#### (2) 勤務先の種類

総合病院（産科単科）	総合病院（産科混合）	総合病院産科外来	産科個人病院、診療所	助産師養成機関	その他	無回答
3	15	0	4	4	3	1

総合病院（産科混合病棟）内訳

- ・婦人科（8）、小児科（2）、小児外科（1）、乳腺外科（2）、内科（2）、外科（2）、消化器外科（1）、整形外科（1）眼科（3）、歯科（1）、女性診療科（1）、アレルギーリウマチ科（1）、全科（1）

## (3) 職位

師長	主任（副師長）	副主任	スタッフ	教員	その他
15	5	1	3	4	3

## (4) 現在の職位の経験年数

1年未満	1～5年	6～10年	11～15年	16年以上
4	11	5	5	6

## (5) 開催時期は適当か

はい	いいえ	無回答
27	0	4

## (6) 講演・シンポジウムの満足度とその理由

満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
30	1	0	0	0

## (7) フロアディスカッションの満足度

満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
30	1	0	0	0

## (8) 全体を通して、今後の助産師活動に活かせるか

とても活かせる	やや活かせる	あまり活かさない	活かさない	無回答
23	7	0	0	1

「とても活かせる」の内容

- ・すぐには難しいが、将来的に活かせる。
- ・産後ケア事業としての取り組みの参考になった。
- ・他施設の状況を知ることができた。
- ・産後再開後の産後ケアのあり方。
- ・現在の妊娠中、分娩後の地域との連携。
- ・助産師としての思い・考えを自施設に持って帰りたいと思ったため。
- ・地域での活動に活かせると思った。
- ・当院で出来る産後ケアをもういちど再考したい。
- ・自施設での強みを活かしてできることを考えたい。
- ・産後ケア、2週間健診等参考になった。
- ・他施設での地域の連携と産後ケアの現状について情報交換を行うことができ、とても有意義な交流の場になった。

## (9) 交流の場となったか

はい	いいえ	どちらでもない	無回答
31	0	0	0

助産師職能委員に対する要望

## ① 今後職能集会や交流会で取り上げてほしいテーマ

- ・助産師新人教育（体制）について。
- ・アドバンス助産師の更新に必要な、手続き書類等について。
- ・思春期教育とSDH（健康の社会的決定要因）。
- ・助産師育成の状況。
- ・地域での活動や具体例
- ・助産師教育、現場での教育、ラダーとのキャップなど教育について考えてみたい。

- ・違う自治体で第2弾。
- ・産後2週間健診の実態。
- ・助産学生と助産師の教育。
- ・教育体制や実際の教育の問題を共有しながら、ディスカッションをしていきたい。
- ・各施設の助産師の育成について。
- ・産後のメンタルヘルス。
- ・不妊治療について。
- ・新しい情報を知りたい。
- ・産後ケアの実際。

## ② その他要望

- ・昼食の案内があったら助かった。
- ・職能委員への謝辞。4名
- ・司会へのお褒めの言葉。

## 〈総括〉

今年では昨年のアンケートで、ディスカッションの時間が短かったという意見が多かったことを考慮したタイムスケジュールとした。例年午前中で退席する参加者が数名いるが、今年は1名のみでありテーマに対する興味の高さがうかがえた。グループディスカッションでは、家庭訪問に限局することなく、産後ケアにテーマを発展させての意見交換がなされており、自部署での課題に合わせた意見交換に発展させることができた。昨年のアンケートと比較してみると、講演・シンポジウムに対して満足と答えたものは72%から96%へ、フロアディスカッションに対して満足と答えたものは82%から96%へとそれぞれ上昇しており、テーマの選択や時間配分の変更にも効果があったと考えられる。今後の開催時のテーマの要望も多岐にわたり、助産師職能委員会への期待を感じた。

## 2 助産師職能集会

日 時：平成31年1月28日（月）13:00～16:30

場 所：千葉県看護協会 中研修室

テーマ：「助産師に求められる周産期メンタルヘルスケア」

趣 旨：周産期における母子のメンタルヘルス支援は、妊産婦の自殺予防、子どもの虐待防止や夫婦・親子といった家族関係の問題の支援にもつながることから、ケアの必要性が高まっている。日本看護協会の調査では、エジンバラ産後うつ質問票（EPDS）は全国49.0%の施設で活用されているなど、産科医療機関におけるスクリーニングは全国的に浸透してきている。しかし、そのスクリーニングを活かすためには、その後のアセスメントと支援の質の向上が課題である。助産師にはさらなる学習と、地域の関係機関との連携体制を強化して、母子保健対策の充実に取り組むことが求められている。そのため、今年度は東京都立大塚病院でメンタルヘルスケアのコーディネーターを務める母性看護専門看護師 瀧 真弓氏を招き、助産師に求められる周産期メンタルヘルスケアについて学ぶ交流会を実施した。後半は、助産師に求められている役割をふまえた各施設での取り組みと課題について情報交換を行った。

内 容：講 演「助産師に求められる周産期メンタルヘルスケア」

講 師： 東京都立大塚病院 母性看護専門看護師 瀧 真弓 先生

参加者数：34名

<アンケート集計結果>

アンケート回収数34 (回収率100%)

(1) 年齢

20代	30代	40代	50代	60代以上
6	5	16	7	0

(2) 勤務先の種類

総合病院(産科単科病棟)	総合病院(産科混合病棟)	総合病院産科外来	産科個人病院・診療所	助産師養成機関	その他	無回答
8	15	1	6	0	3	1

総合病院(産科混合病棟)内訳

・婦人科(6)、外科・眼科・内科(各2)、整形外科・小児外科・血管外科・母性診療科・その他(1)

(3) 職位

師長	主任(副師長)	副主任	スタッフ	教員	その他
2	4	2	23	3	0

(4) 助産師経験年数

1~3年	3~5年	5~7年	7~10年	10~15年	15~20年	20~25年	25年以上
2	3	2	5	4	5	7	6

(5) 開催時期は適当か

はい	いいえ
33	1

(6) 講演の満足度

満足	やや満足	やや不満	不満
30	4	0	0

(7) グループディスカッションの満足度

満足	やや満足	やや不満	不満	無回答
25	8	0	0	1

(8) 今後の助産師活動に活かせるか

とても活かせる	やや活かせる	あまり活かせない	活かせない	無回答
20	13	0	0	1

(9) 他施設との交流の場になったか

はい	いいえ	どちらでもない	無回答
30	0	2	2

(10) アドバンス助産師を取得しているか

はい	いいえ
19	15

(11) 今後のアドバンス助産師新規申請および更新予定

新規申請予定あり	更新予定あり	予定なし	未定	無回答
3	5	8	17	1

予定なし・未定の理由(複数回答)

到達条件を満たせない	業務に必要と感じない	申請(更新)料が高額	上司の理解が得られない	その他
14	9	4	0	1

## 助産師職能委員会に対する要望

- (1) 今後職能集会や交流会で取り上げてほしいテーマ
  - ・メンタルヘルスはまた取り上げてほしい・交流会を行ってほしい (3)
  - ・矢島床子氏の講演
  - ・最新の周産期医療の実際・動向 (ガイドライン)
  - ・最新のエビデンスに基づく妊産婦への栄養指導 (GDM患者への栄養指導)
  - ・母親学級運営
  - ・外国人や妊婦健診未受診妊婦の支援
  - ・母乳育児 (最近の動向、情報など)
  - ・院内助産、助産師外来、母乳外来、アロマセラピー、ベビーマッサージ
  - ・混合病棟での助産師の役割
  - ・看護必要度に産科がカウントされないため、産科に対しての認識が低いことについて
- (2) その他要望
  - ・他施設との交流の場になるので、開催回数を増やしてはどうか

## 〈総括〉

メンタルヘルスは社会的にも関心の高いテーマであり、参加者数が前年の27名より増加した。講演やグループディスカッションに対する満足度が高かったことから、有意義な職能集会が開催できたと考えられる。今回は次年度からの助産師職能集会の開催時期変更に伴い、従来中堅助産師交流会を開催していた時期に職能集会を開催したが、幅広い職位・年代層の助産師が参加することにより情報の幅が広がり、参加者の満足度を高めることができた。

時期的にも年末年始を過ぎ勤務調整をしやすい時期であるとの意見が複数あったこと、次年度から総会の場で開催する職能集会ではグループディスカッションの時間を確保しづらいことを考えると、この時期に開催する交流会の対象者を中堅助産師と限定せず、「助産師職能トピックス交流会」などと名称を変更して、幅広い層の助産師が参加できる内容的に踏み込んだ交流会にすることを考えてもよいのではないかと。

今回、アンケートに加えたアドバンス助産師の申請・更新についての意向調査では、「新規申請・更新予定あり」に比べ、「予定なし・未定」と答えた助産師の数が3倍多いという結果となり、今後の申請・更新に向けた啓発活動が必要であることがわかった。年2回発行している「助産師だより」で必須研修を受けられるサイトや学会の紹介をするといった対策を取ることが必要である。

## 3 「国際助産の日」企画・開催

日 時：平成30年5月12日 (土) 13:00～16:00

会 場：ユニモちはら台

内 容：今年度は「生きるを、ともに、つくる」をテーマとし開催された看護の日に、昨年同様、市原 地区部会と合同で開催した。今年も妊婦体験、沐浴体験、胎児モデル展示、進路相談を行った。今回も親子での来場者が多く、満面の笑みを浮かべ沐浴を体験する子どもの姿や、妊婦ジャケットを着用し重さに驚く子ども・妻をねぎらう夫、胎児モデルを見ながら胎児の成長とわが子を重ね合わせ、語らう様子も見かけることができた。参加した父、母、子が「妊娠・出産・育児」に触れ語り合う場となっていた。

	平成30年
妊婦体験	37名
沐浴体験	43名
胎児モデル展示	142名
進路相談	2名
赤ちゃん抱っこ	43名
総数	267名

(各項目は延べ人数)

4 アドバンス助産師の活動状況アンケート調査の分析・まとめ

アドバンス助産師の活動状況と今後の更新への意向、各施設の取り組み状況について把握することを目的にアンケート調査を行った。その結果を下記の学会で発表した。

(1) 第49回 日本看護学会 -ヘルスプロモーション-学術集会

日 時：平成30年9月21日（金）

場 所：岡山コンベンションセンター

演 題：A県におけるアドバンス助産師の現状と課題（示説展示）

大病院の管理職など30名程度が来場し、給与や手当について、制度のメリット、今後の活動内容について等の質問があった。

(2) 第37回 千葉県看護研究学会

日 時：平成31年2月27日（水）

場 所：アパホテル&リゾート東京ベイ幕張ホール

演 題：アドバンス助産師育成の支援状況 -A県内施設の管理者の取り組み-

今後の助産師活動の内容について質問があった。

5 助産師職能委員会開催状況

6回実施した。

6 助産師だよりの発行

秋号（11月）・春号（4月）の2回発行。内容は研修の年間計画や本協会からの情報など会員への情報提供を行っている。

7 千葉県看護協会事業への参加・協力

8 平成30年度千葉県看護協会研修計画への参加及び日本看護協会事業への参加・協力



### Ⅲ 平成30年度助産師職能委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	7月10日	第1回職能委員会 1 新規役員顔合わせ 2 年間計画決定 3 国際助産師の日まとめ 4 日本看護学会、千葉県看護学会研究発表準備	1 事務局より説明。 2 年間計画、交流会、職能集会について、テーマ、日程、プログラム、担当者の決定。 3 国際助産師の日まとめと課題の明確化 4 研究発表に向けメールで検討した内容について確認をした。
第2回	9月11日	第2回職能委員会 1 産科管理者交流会準備 2 助産師職能集会準備 3 助産師だより(秋号)作成 4 日本看護学会、千葉県看護学会研究発表準備	1 テーマ：子育て支援と地域連携、役割分担を決定。趣旨書、プログラム、アンケートの作成。 2 テーマ：周産期メンタルヘルス、役割分担。 3 助産師だより秋号の作成 4 研究発表に向けメールで検討した内容について確認をした。
第3回	10月23日	第3回職能委員会 1 産科管理者交流会最終確認 2 助産師職能集会準備	1 産科管理者交流会進行、役割分担について最終確認。 2 助産師職能集会役割分担を決定。趣旨書、プログラム、アンケートの作成。
第4回	12月13日	第4回職能委員会 1 産科管理者交流会評価 2 助産師職能集会準備 3 中間評価 4 平成31年度活動計画	1 産科管理者交流会アンケート結果の報告・確認。 2 助産師職能集会進行、役割分担について最終確認。 3・4 中間評価、平成31年度活動計画作成
第5回	1月28日	第5回 職能委員会 1 助産師職能集会最終確認 2 職能集会(6月)企画 3 千葉県看護学会研究発表準備	1 役割分担と内容の最終確認 2 テーマと講師の検討 3 研究発表に向けメールで検討した内容について確認をした。
第6回	3月20日	第6回 職能委員会 1 助産師職能集会評価 2 職能集会(6月)準備 3 国際助産師の日準備・打ち合わせ 4 平成30年度まとめ 5 平成31年度計画 6 総会資料作成 7 助産師だより作成	1 アンケート結果の報告 2 趣旨書、アンケート作成、役割分担 3 計画、役割分担の検討 4・5 まとめ・計画の立案 6 総会資料の作成 7 助産師だよりの作成

IV 令和元年度 助産師職能委員会 活動計画

項 目	内 容
活 動 目 的	1 県民の安全かつ安心な妊娠、出産、育児をめざし、助産師が、実践能力を高め、その専門性を発揮できるように支援する。 2 会員相互の情報交換を図り、県内助産師間の連携を強化する。
委員会開催予定	1 助産師職能委員会 年6回程度 2 三職能合同委員会 年2回
検 討 事 項	1 実践能力の向上 (1) 標準化 ①助産師ラダーの推進 (2) 質の向上 ①助産師ラダーの普及、推進 ②アドバンス助産師の活動状況調査結果に基づく課題の検討 ③助産師出向システム構築の支援 ④教育部への研修に関する提案 2 専門性の発揮 (1) ラダー推進（初回申請・更新）のための研修の提案・提言 (2) 子育て世代を対象にした地域包括ケアの推進 (3) 周産期メンタルヘルスに関する情報提供 3 県内の助産師職能の組織力の強化 (1) キャリア及び施設の特性に応じた助産師の情報交換と交流の推進 (2) ネットワークの構築 (3) 助産師だよりの発行 4 国際助産師の日の企画・運営
交 流 会 等	1 産科管理者交流会の企画・開催 2 新人助産師交流会（新人助産師研修会）への参画 3 中堅助産師交流会の企画・開催
職 能 集 会	1 前年度活動実績報告 2 本年度活動方針・計画 3 講演会またはシンポジウムなどの開催 4 意見交換と情報交換
三職能合同委員会	1 三職能共通課題の検討
そ の 他	日本看護協会 1 千葉県看護協会助産師職能委員会活動状況報告 2 日本看護協会総会・全国助産師職能集会に協力 3 都道府県職能委員長会議 年1回 4 地区別法人会・都道府県助産師職能委員長会 年1回
	印刷物等 1 職能集会資料 2 助産師だより
	そ の 他 1 千葉県小児保健協会総会への参画 2 千葉県看護協会事業への参加・協力

## I 活動目標

- 1 看護師が専門性を発揮しながらやりがいを持って働き続けることができるよう、看護師職能Ⅰ（病院領域）が抱える課題に取り組む。
- 2 看護の質向上を図るために、准看護師のスキルアップと進学を支援する。
- 3 社会医療制度の動向を踏まえ、看護師職能Ⅰ（病院領域）の看護の役割を考え、質向上に向けて検討する。

## II 活動内容

### 1 看護師職能Ⅰ（病院領域）集会

(1) 日 時 平成30年9月15日（土）13：00～16：30

(2) 会 場 千葉県看護会館

(3) テーマ 「診療報酬の改定に伴う多職種連携における看護師の役割を構築する。」

(4) ねらい

①看護師職能委員会の活動を知り認識を深める。

②平成30年度の診療報酬・介護報酬同時改定に伴い、多職種連携において看護師の専門性を発揮するため、入退院支援などを通してどのような役割を果たせばよいか考える。

(5) 参加者数：39名

(6) 内容

①平成29年度活動状況及び平成30年度活動計画報告

平成29年度実施した看護師職能集会、看護師交流会、准看護師交流会について報告した。平成30年度活動計画は、3か年計画に基づき、地域包括ケアシステム構築に向けて看護の専門性の明確化などを目的に年間計画を示した。また、看護師交流会は、患者の意思決定支援における看護師の役割について、領域Ⅰ・Ⅱ合同開催を企画していること。准看護師交流会は、教育ニーズに沿った講義と進学支援を企画していることについて報告した。また、准看護師の進学状況に関する追跡調査に引き続き取り組んでいくこととした。

(7) 講演

テーマ：「診療報酬に伴う多職種連携における看護師の役割を構築する」

講 師：日本看護協会常任理事 吉川久美子氏

地域包括ケアシステムの構築が急がれる中で、病院や地域における多職種連携の強化が推進されている。そんな医療情勢の中で改定の内容がどのように現場に影響しているのか、改定後半年が経過しての現状や取り組みの実際などを交え、看護師の役割について講義をいただいた。医療・介護の診療報酬同時改定の概要を改めて知り、地域包括ケア実現に向けて入退院支援を強化していく必要があること、質の高い在宅医療・訪問看護を確保するために、医療と介護の連携を中心に看護管理者が取り組むべき課題について知識を深めることができた。在宅支援の強化に向けた看護師の育成方法の一案として、病院と訪問看護ステーションとの人事交流や合同研修を開催するなどの具体的な内容は、実践活動に活用できるものであった。多職種連携において、様々な職種や関係機関との連携・調整は看護職が中心となってマネジメントを行うことが重要であり役割であることが示された。

(8) アンケート結果

①参加者数：39名 アンケート回収数：36名（回収率90%）

②参加者の背景

- ・ 施設 病院 33名 診療所 0名  
その他 2名（看護学校、在宅医療介護連携支援室） 無回答 1名
- ・ 病床数 なし2名 1～19床 0名 20～99床 2名 100～299床16名 300～499床10名  
500床以上5名 無回答 1名
- ・ 職種 看護師 34名 無回答 2名
- ・ 職位 看護部（局）長 2名 副看護局（部）長 2名  
看護師（科）長16名 副看護師長（係長・主任）6名 看護スタッフ 6名  
在宅医療介護連携支援室室長1名 その他 1名

③看護師職能委員会の活動について知ることができたか

はい 36名 いいえ 0名

④講演内容に興味をもてたか

はい 35名 いいえ 0名 無回答 1名

⑤今年度の診療報酬改定の概要に対する理解ができたか

はい 36名 いいえ 0名

⑥診療報酬の改定に伴い、他職種連携の中で看護師に求められる役割について考えられたか

はい 35名 いいえ 0名 無回答 1名

⑦開催時間は適切か

はい 31名 いいえ 5名

(9) 評価

- ・ 看護師職能委員会の活動については、アンケート結果で参加者全員が職能委員会の活動を知ることができたと回答しており、活動に対する理解を得ることができたと考えられる。
- ・ 講演については、診療報酬改定の概要を分かりやすく説明していただいたことで、普段の看護実践が加算取得につながっていることに気づいた、在宅→外来→入院→在宅のプロセスにおける連携の必要性が理解できた、医療計画が都道府県で計画されていることを知ったなど、改めて仕組みを認識したという意見が聞かれた。他医療施設や訪問看護ステーション、ケアマネージャーとの連携についてイメージでき、コーディネーターとしての役割を果たす必要があるという意見が多く聞かれた。看護師は病院や地域において直接患者にかかわること以外に、他の職種と協力しながら医療や介護を提供し、マネジメントする力をつけることが重要であると理解できた。グループワークによってさまざまな情報を得られ、取り組むべき課題が見えてきて有意義だったという意見が多く、研修ねらいは達成できたと思われる。グループワークは他病院での取り組みなど共有でき、研修の理解に有効であった。

2 看護師職能（領域Ⅰ・Ⅱ）合同交流会

(1) 日 時 平成30年12月9日（日） 13：30～16：30

(2) 会 場 千葉県看護会館 大研修室

(3) テーマ 「患者の生活を支える意思決定支援」

(4) 目 的 多様な場面での意思決定支援における看護師職能領域Ⅰ・Ⅱの役割を理解し、継続看護を強化する。

(5) ねらい

①多様な場面での意思決定支援に関する実践報告を領域Ⅰ・Ⅱの連携に活用する

②合同開催することで、顔の見える関係を構築し連携をはかる

(6) 参加者数119名 (領域Ⅰ 82名 領域Ⅱ 37名)

(7) 内 容

①講演「現在進行性としての意思決定支援を実践する ～生活者の人生に寄り添う在宅医療の現場からの提言～」

あおぞら診療所 院長 川越正平氏

意思決定を要した対象者の7割は意思決定能力を喪失している。リスクある人への予見、原疾患の再発、状態への変化に対して訪問看護師・ヘルパー・本人・家族それぞれが何ができるのか、3つの軌道(がん・内臓疾患・認知症老衰)を持つ対象者への予見をし、継続して必要なことを考えて手伝うということについて述べられた。また、在宅ケアの根幹を支えるのは訪問看護であり、訪問看護ステーションの連携や在宅医との連携が重要である。そして、地域のかかりつけ医と病院の医師との連携や、在宅での二人主治医性にするなど、患者が受診する際の負担が軽減できるのではないかと示された。Advance Care Planningでは、適切な情報提供の必要性や、本人・家族、介護する人たちも含めた多職種で話し合い、時間軸と医療・介護の統合を重視する意思決定支援について述べられた。

松戸市の、「まちっこプロジェクトChild to Community Projectの取り組みについてもご紹介いただいた。

②事例提供

・介護老人保健施設ロータスケアセンター 施設長代理 川端 心氏

本人の気持ちや発言を大切にすること。本人にとっての最善の方針をとることが基本であり、施設看護師として医療・生活・死を統合的に捉えてケアしていることを述べられた。

・カンナ訪問看護ステーション 所長 柴崎 ゆかり氏

必要な情報をきちんと伝えることが必要。また、本当に望んでいることが何かを、会話することで整理し、ともに考えることが必要であると述べられた。

・松戸市立総合医療センター 師長代理 笹井 由美氏

患者や家族が自分の意見を言える環境を整えること、患者・家族にとって何が良いのかを考えること、患者・家族の思いにどこまで寄り添い承認できるのかアセスメントし、不安なく退院できる環境づくりを実現することが課題であると述べられた。

③会場を含めた意見交換

医療や介護現場で抱える悩みや課題について参加者から質問があり、講師を交えたシンポジストと意見交換を行った。

(8) アンケート結果

(領域Ⅰ)

①所属施設 病院78名 (回収率95%)

②職位 看護部長6名 副看護部長1名 看護師長23名

副看護部長9名 主任看護師15名 看護師24名

③患者の生活を支える意思決定支援について、理解を深める機会になりましたか

はい 77名 (99%) いいえ0名 無記入 1名 (1%)

④日頃の看護実践に活用できると思いますか

はい 76名 (97%) いいえ0名 無記入 2名 (3%)

⑤事例提供、意見交換は効果的でしたか

はい 72名 (76%)      いいえ 2名 (3%)      無記入4名 (5%)

⑥看護師交流会の開催時間は適当でしたか

はい 66名 (85%)      いいえ 7名 (9%)

どちらでもない 1名 (1%)      無記入 4名 (5%)

⑦領域Ⅰ・Ⅱ看護師交流会全体に対する感想・ご意見

- ・領域Ⅰ・Ⅱの医療の流れを理解できたとともに、大切さを再認識できた。
- ・病院、施設、訪問看護など、シームレスな連携ができるようまた交流したい。
- ・グループワークなど、領域Ⅰ・Ⅱが直接交流したり、意見交換できる場があるといいと思う。など

(領域Ⅱ)

所属施設：36名 (診療所1名 特養4名 老健11名 訪看10名 療養型1名 その他9名) 回収率97%

職 位：看護部長1名 看護師長3名 主任看護師4名 所長1名 管理者1名 責任者1名

看護師15名 准看護師2名 保健師3名 教員2名 その他3名

講演・事例提供・意見交換について

①患者の生活を支える意思決定支援について、理解を深める機会になりましたか。

はい 36名      いいえ 0名

- 理由
- ・施設では胃瘻造設や見取りの意思決定支援が多々あるのでとても参考になった
  - ・事例を通してだったのでわかりやすかった。しかし現在認知症の方が多く、意思決定は家族またはキーパーになる方が行うことが多い
  - ・核家族で老々介護や親子二人だけの生活、独居老人など抱える問題、課題は多くあると思うがとても参考になった
  - ・日々、本人や家族の意向を確認しながらケアを行っているが、改めて大切さを確認できた
  - ・プロセスについて理解が深められたが、積極的で意思決定のできない患者家族への意思決定を促す、良かれと思われる方向へ導く方法についても知る機会があればよかった

②日頃の看護実践に活用できると思いますか

はい 35名      いいえ 1名

- 理由
- ・地域利用者とのかかわりで生かされと思った
  - ・本人が意思決定できる時期にたくさんのコミュニケーションを通して、家族への意思決定の手助けになればと思った
  - ・当事者をより理解していこうという気持ちになり、言葉一つ一つをかかわりの中で大切にしておくことで実践につながればと思う

③事例提供・意見交換会は効果的でしたか

はい 33名      いいえ0名      無記名3名

- 理由
- ・不安なく退院できる環境づくりの大切さを改めて感じた
  - ・実際の事例を聞いて、自分の職場にも似たような経験があったのでとても参考になった
  - ・事例も意見交換会もテーマに沿ったいい内容だった

④看護師交流会の開催時間は適当でしたか

はい 32名      いいえ4名

- 理由
- ・勤務、家庭の用事の調整が比較的しやすかった
  - ・少し短かった
  - ・時間に余裕があり良かった

## (9) 評価

### (領域Ⅰ)

講演については、領域Ⅰの参加者ほとんどが、患者の生活を支える意思決定支援について理解を深めることができ、看護実践に活用できると回答した。事例提供、意見交換については効果的だったとの回答が多かった一方で、会場全体でのシンポジウム形式であったため、意見交換の時間が足りなかったことや、各領域との直接交流や意見交換ができる場を望む意見が複数あった。開催時間については、日曜日だったことから別日を希望する意見も少数あったが、午後半日の開催に対しては概ね参加しやすかったという結果になった。

今回、領域Ⅰ・Ⅱ合同で初めての交流会開催となった。講演・事例提供などを通し、多様な場面での患者の意思決定支援について、各領域での役割を考える機会となった。また、継続看護の充実・強化に向けて、病院と施設・訪問看護など地域との連携の重要性についても学ぶことができ、目的達成に向け有意義な会になったと考える。

今後の合同看護師交流会は、4年毎の開催を申し合わせた。より効果的な交流に向けて、日頃から2領域の連携と情報共有の機会を持つことが課題と考える。

### (領域Ⅱ)

終末期に意思決定を必要とした患者の7割が意思決定能力を失っているとされている。本人の意思決定が困難な場合にだれが意思決定を担うのか。

疾病には3つの軌道があり事前にくぼみや負の傾きを未然に防ぐことができる。そのためには多職種の間が重要となる。病院や施設、訪問看護などのそれぞれの視点からできる意思決定支援や普段の会話の中でその方の言葉や表情の変化などに気づき多職種と情報共有の必要性についても学ぶことができた。

パネルディスカッションでの事例提供・意見交換会では実際の事例を聞いて、現職場にも似たような経験があったのでとても参考になり具体的な理解につながった。

## 3 准看護師交流会

(1) 日 時 平成31年1月19日(土) 13:00~16:30

(2) 会 場 千葉県看護会館

(3) テーマ 「准看護師のキャリアアップに向けて」

(4) ねらい

- ① 日常の看護技術についてスキルアップできる機会とする。
- ② 進学支援に必要な情報を提供し、進学体験や交流の場から進学に対して前向きな考えを持つことができる。

(5) 参加者数 37名

(6) 内容

- ① 講演「パーソン・センタードの視点で実践する認知症高齢者のケア」

講師 国保直営総合病院 君津中央病院 認知症看護認定看護師 高梨 敬子氏

認知症の症状、認知機能障害(中核症状)と行動・心理症状(BPSD)の概要説明。

BPSDは、認知症の人にとっての対処行動・防衛行動で、不安や戸惑い、不快などを相手に伝えるメッセージである。要因・誘因を理解し、適切なケアを提供することで予防できる。パーソン・センタード・ケアとは、認知症をもつ人を、一人の「人」として尊重し、その人の視点や立場に立って理解し、その人らしさを維持することを大切にケアする考え方。実践のための3つのステップ①思いを「聞く」②情報を「集める」脳の障害、身体の状態、生活歴、性格傾向、

社会心理の5つ要素から全体像を把握する。③ニーズを「見つける」について具体的に説明された。患者とのコミュニケーションを大切にすることで、自分が価値ある人間だと思えることができ、安心できる、心地よい時間を増やすことが行動・心理症状（BPSD）の予防につながると、学んだ。

事例を基にグループワークをし、日頃の看護実践を見直す機会となった。

## ② 進学体験談

君津中央病院附属看護学校副教務長 桑田祐加氏（全日制進学体験者）

千葉県救急医療センター 白川 泰之氏（全日制進学体験者）

東葛クリニック病院 大野 菜緒氏（通信制進学体験者 現学生）

准看護師として経験を重ねる中で、就職先や仕事内容が限定され、知識や役割に違いがあることに気づき、進学を決意した。学習面や経済面、育児などに不安を抱えていたが、家族の支援やクラスメイトと励まし合うことで乗り越えることができた。全日制では、退職金や前勤務先の理解を得て、長期の休みにパートタイマーで働くことで生活費の補填ができた。進学制では、放送大学への入学時期を考慮する必要があるがあった。学習と仕事の両立となり大変だが、学んだことがすぐに日々の看護に活かせるのが良かった。休暇や奨学金制度の利用など、職場に配慮してもらったことができた。

進学はできないことをできるに変えられる。自分の幅を広げることができるものだと思う。進学後のキャリアアップやスキルアップ、現役学生としての前向きな取り組みなどが参加者の関心を高め、真剣に聴講していた。

## ③ 進学支援情報 学校説明会

放送大学学園 学校連携教育課 鈴木賢一課長補佐

東京衛生学園専門学校 看護学科通信制 秋山千草先生

市原看護専門学校 梅里妙子副校長

野田看護学校、小見川看護専門学校のパンフレット紹介。

専門実践教育訓練給付金など、制度の利用について説明。

## ④ 交流会 テーマ「進学に対する思い・私のキャリア構築」

本日の進学体験や学校の案内などを聞いて感じたことや、進学に対する思いなど情報交換し交流を深めた。

東京衛生学園専門学校 秋山千草先生と市原看護専門学校 梅里妙子副校長 参加。

## (7) アンケート結果および評価

参加者数：37名（非会員：23名） アンケート回収数：35名（回収率94.5%）

講演については、全員が参考になった、34名が実践の場で活用できると答えた。認知症患者様が増えているので、対応の仕方が聞けてよかったという意見だった。

進学体験談、進学支援情報、グループワークは、34名が参考になった。31名が、交流会が進学・今後のキャリアについて考える機会となったと答えた。

特に体験談や進学支援情報を聞いて、進学を考える良い機会になった。勉強会があれば参加したい。やりたい気持ちがあれば何でもできると思った。前向きな話が聞けて良かった。周りの人の意見が聞けて良かった。など、肯定的な意見が多かった。

交流会に学校関係者も参加していただいたことで、具体的なアドバイスを受けている参加者も多く、開催の意義は高いと思われた。昨年度のアンケート要望から専門実践教育訓練給付金制度について説明を加えた。今後も充実した情報提供が求められる。



### Ⅲ 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	7月31日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成30年度職能委員会活動計画及び運営について</li> <li>2 役割分担</li> <li>3 開催予定</li> <li>4 その他</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平成30年度活動計画作成</li> <li>・委員の役割・担当</li> <li>・職能集会の企画・講師決定</li> <li>・看護師交流会の企画検討</li> <li>職能Ⅱとの合同開催計画検討</li> <li>・准看護師交流会の企画検討</li> <li>・全国職能委員会報告</li> </ul>
第2回	8月30日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 職能集会準備</li> <li>2 看護師交流会企画検討</li> <li>3 准看護師交流会の企画検討</li> <li>4 全国職能委員長会報告</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職能集会打ち合わせ</li> <li>・職能Ⅱとの合同看護師交流会企画検討(進捗状況の確認)</li> <li>・准看護師交流会の企画検討講演テーマおよび講師決定</li> <li>・准看護師交流会の体験者の推薦</li> <li>・学校説明の施設決定</li> </ul>
第3回	12月9日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 合同看護師交流会準備</li> <li>2 准看護師交流会企画決定</li> <li>3 平成31年度職能集会の企画検討</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交流会開催最終打ち合わせ</li> <li>職能Ⅰ・Ⅱの情報共有</li> <li>・准看護師交流会の講師、体験者、情報提供内容等決定</li> <li>・職能委員会活動報告と講演会を企画しテーマと講師について検討</li> </ul>
第4回	12月13日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護師職能集会まとめ・評価</li> <li>2 平成31年度職能委員会活動検討</li> <li>3 全国職能委員長会報告</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師職能集会結果確認、評価</li> <li>・職能集会のスケジュールについて検討</li> <li>・講演のテーマ、講師の絞り込み</li> </ul>
第5回	1月19日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成31年度活動計画検討 新たな中期活動計画を検討</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護師職能集会の講師は宮子あずさ氏に決定</li> <li>・職能委員会の中期活動計画検討</li> </ul>
第6回	2月21日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 准看護師交流会結果まとめ・評価</li> <li>2 合同看護師交流会まとめ・評価</li> <li>3 平成31年度職能委員会企画決定</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・准看護師交流会結果報告</li> <li>・平成28年度准看護師交流会追跡調査結果報告・まとめ</li> <li>・2職能のアンケート結果確認、評価・まとめ</li> </ul>
第7回	5月16日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和元年職能集会準備</li> <li>2 令和元年度の活動計画検討</li> </ol>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職能集会企画、スケジュール、会場レイアウト最終確認</li> <li>・企画及び開催日の最終確認</li> <li>企画内容の最終確認</li> </ul>

IV 令和元年度 看護師職能委員会 I（病院領域）活動計画

項目	内容
活動目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護師が専門性を発揮しながら、やりがいを持って働き続けることができるよう、看護師職能 I（病院領域）が抱える課題に取り組む</li> <li>2 看護の質向上を図るために准看護師のスキルアップと進学を支援する</li> <li>3 社会医療制度の動向を踏まえ、看護師職能 I（病院領域）の看護の役割を考え、質向上に向けて検討する</li> </ol>
委員会開催予定	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護師職能 I（病院領域）委員会 年6回</li> <li>2 看護師職能 I・II 合同委員会 必要時</li> <li>3 三職能合同委員会 必要時</li> </ol>
検討事項	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 職能委員会（病院領域）の活動目標・計画を踏まえ、看護の役割を明確にし、活動の成果を可視化していく。</li> <li>2 新たな中期計画に基づいて交流会を企画し、多様化する看護師の役割の明確化とやりがいを持って働き続けられる職場づくりを目指す。 令和元年度 ヘルシーワークプレイスについて理解を深める 令和2年度 災害時における医療体制の充実を図る 令和3年度 多職種と協働し在宅移行支援を推進する 令和4年度 看護師職能 I・II 合同開催</li> <li>3 准看護師制度の動向を踏まえ、准看護師のスキルアップ及び進学支援を継続する。准看護師交流会実施後の進学状況に関する追跡調査結果を企画に反映させる。</li> </ol>
職能集会交流会等	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護師職能 I（病院領域）集会 総会時に開催 6月</li> <li>2 看護師交流会 9月</li> <li>3 第25回准看護師交流会 11月頃</li> </ol>
その他	日本看護協会 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 千葉県看護協会看護師職能 I（病院領域）活動状況報告</li> <li>2 日本看護協会看護師職能 I（病院領域）の調査活動に協力</li> <li>3 都道府県看護師職能委員会 1回/年</li> <li>4 地区別法人会・看護師職能委員長会 1回/年</li> </ol>
	印刷物等 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 職能集会資料</li> <li>2 交流会資料</li> <li>3 職能委員会ホームページの記事掲載および更新</li> <li>4 その他</li> </ol>
	その他 <ol style="list-style-type: none"> <li>1 千葉県看護協会事業への参加・協力</li> <li>2 千葉県小児保健協会理事会・総会への参画</li> </ol>

## I 活動目標

1. 領域Ⅱの看護師がおかれている現状を把握し、領域Ⅱの看護師の抱える課題や悩みを取り上げながら解決に向けた方策を考え、看護協会長への助言を行う。

## II 活動内容

### 1. 職能集会の開催

(1) 日 時：平成30年10月1日（月）13：30～16：30

(2) 会 場：千葉県ナースセンター3階

(3) テーマ：【認知症看護】

～病院から在宅まで途切れない看護の提供のために～

(4) ねらい ①職能集会を通して領域Ⅱの活動を知る。

②認知症のある方が住み慣れた地域で生活をするために必要な看護を学び、看護師の役割を確認する。

(4) 参加者数：33名

(5) 内 容

- ・平成29年度活動報告及び平成30年度活動計画

平成29年度実施した看護師職能領域Ⅱ集会・交流会について状況を報告した。

平成30年度活動計画はアンケートのなかで希望が多かった研修の認知症について計画した。交流会については多様な場面での意思決定支援における看護師職能領域Ⅰ・Ⅱの役割を理解し、継続看護強化にむけた領域Ⅰとの合同開催むけた計画をした。

- ・講演 セコメディック病院 認知症看護認定看護師 伊藤美雪氏

認知症の人と私たちとの違いや老化と日常生活への影響・脳機能の基礎知識・高齢者の特徴を学び、その後、事例紹介しどのような対応を考えられるかなど研修した。

- ・グループディスカッション

講師を交え講演を聞いた内容での感想・業務している中での継続看護についての質問等をおこない情報交換につなげた。

- ・アンケート結果

<参加者の背景> 参加者数：33名 アンケート回収率100%

・所属施設：特養23名 老健7名 訪看1名 小規模多機能1名 無回答1名

・職 位：部長4名 主任7名 スタッフ15名 その他4名 無回答3名

<参加者の認識>

- ・領域Ⅱの活動報告・計画についての理解

理解できた28名 無回答5名

- ・講演についての理解

理解：理解できた21名 ほぼ理解できた10名 無回答2名

職場での活用：大いにできる・できる30名 あまりできない1名 無回答2名

- ・今後職能領域Ⅱで取り上げて欲しいテーマ

スキンケア・褥瘡14名で希望が一番多かった。

- ・領域Ⅱで働く看護師として困っていること課題はなんですか  
他職種との連携 8名 スキルアップ 5名 無回答 20名
- ・今後も職能領域Ⅱ集会等に参加希望したいか  
はい 33名 いいえ 0名

<今回の研修の内容について>

研修テーマであった「入院から在宅まで途切れない看護の提供のために」という内容と異なっているところもあった。

## 2. 看護師職能（領域Ⅰ・Ⅱ）合同研修会（看護師職能（領域Ⅰ）報告参照）

### Ⅲ 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	7月5日	1 平成30年度職能委員会活動計画及び運営について 2 役割分担	1・2について討議した。
第2回	8月2日	1 職能集会に関して 2 領域Ⅰ・Ⅱ合同交流会に関して	1に関して講師や会場レイアウト、役割分担などを検討した。 2に関して役割を検討した。
第3回	9月3日	1 合同交流会について 2 職能集会について 3 次年度の職能集会について	1 内容の確認を行った。 2 プログラム等の確認を行った。 3 講演内容を検討した。
第4回	10月1日	1 合同交流会について 2 職能集会について	1 日程調整かつ日程は保留となった。 2 午後から行われるプログラムと役割分担を再度確認した。
第5回	11月12日	1 職能交流会について 2 職能集会の結果について 3 次年度の職能集会の講演会について 4 報告書中間まとめ	1 プログラム、役割分担の確認を行った。 2 アンケート結果を確認した。 3 講演会内容、講師の検討を行った。 4 中間まとめの内容の確認を行った。
第6回	1月19日	1 千葉県小児保健学会・総会について 2 本年度の領域Ⅱの最終まとめ 3 職能集会のプログラム及び講演会について	1 プログラム確認 2 現状と課題について検討集会の在り方や集会による効果検証の方法について検討した。 3 次年度の職能集会のプログラムについて検討した。
第7回	4月8日	1 令和元年度看護協会総会後の職能集会について 2 次年度の委員会について	1 職能集会のプログラム及び職能集会における役割確認、職能集会での報告事項の確認をおこなった。 2 次年度の委員会の開催予定について予定日を検討した。

IV 令和元年度 看護師職能委員会Ⅱ（介護及び福祉関係施設・在宅領域）活動計画

活 動 目 的	1 領域Ⅱの看護師が置かれている現状を把握し、領域Ⅱの看護師の抱える課題や悩みを取りあげながら解決に向けた方策を考え、看護協会会長への助言を行う。	
委員会開催予定	1 2019年7月～2020年3月までの間に6回以上開催する。	
検 討 事 項	1 2020年度の年次総会後の職能集会（領域Ⅱ）の企画について検討する。 2 2019年度の交流会の開催について	
交 流 会 等	1 看護師職能Ⅱ集会 1回 2 看護師領域Ⅱ交流会 1回	
そ の 他	日本看護協会	1 日本看護協会看護職能委員会領域Ⅱの活動へ協力 2 都道府県看護師職能委員長会 2回/年 3 地区別看護師職能委員会 1回/年
	印 刷 物 等	1 職能集会資料 2 交流資料 3 その他
	そ の 他	1 千葉県看護協会事業

# 日本看護協会関係報告

会長 寺口 恵子

## 法人会報告及び職能委員長会報告

### I 法人会員会（全国）

#### 第1回法人会員会

日時 平成30年5月11日（金）15:00～16:00  
場所 JNAホール  
議題 1. 地域医療介護総合確保基金について  
2. 医療安全管理者養成研修について  
3. その他

#### 第2回法人会員会

日時 平成30年7月26日（木）13:00～16:00  
場所 JNAホール  
議題 1. 訪問看護ステーションの現状と県協会立訪問看護ステーションの今後の検討について  
2. 公益法人としての選挙活動について  
3. 平成31年度医療安全管理者養成研修の実施について  
4. 准看護師養成所の新設阻止につついて  
5. 地区別法人会員会プログラム（案）および会議開催日程について  
6. その他

#### 第3回法人会員会

日時 平成30年9月14日（金）14:00～16:00  
場所 JNAホール  
議題 1. データヘルス改革について  
2. 「2019年度 通常総会」開催に向けて（お願い）  
3. その他

#### 第4回法人会員会

日時 平成30年11月22日（木）13:00～16:00  
場所 JNAホール  
議題 1. 保健師、助産師及び看護師に対する再教育研修制度について

2. 働き方改革について
3. 医療セプターからの情報に対する対応方針について
4. 第5回法人会員会（2019年2月開催）の進め方について
5. 2019年度日本看護協会通常総会における優先予約の申込について
6. その他

### II 平成30年度 地区別法人会員会・連絡会

日時 平成30年10月25日（木）9:30～13:00  
場所 ヨコハマ グランドインターコンチネンタルホテル  
議題 1. 組織強化（会員増）の取り組みについて  
2. 看護学会の現状と課題  
3. 協会立訪問看護ステーションの運営の現状と課題  
4. 災害支援ナースの育成と災害時対応における多職種連携  
5. 離職時の代行届出者へのeナースセンターへの啓発について  
6. 倫理委員会の設置と運用状況について  
7. 看護職のセクハラ等被害対策について  
8. 看護Ⅱ領域の会員増加に向けての取り組みについて  
9. 准看護師の安全安心な看護業務の実施について  
10. 看護協会で働く看護職の人材確保について  
11. 事務局長の人材確保の方法について

### III 平成30年度都道府県看護協会長・看護連盟会長合同研修会

日時 平成31年2月22日（金）13:00～15:00  
場所 JNAホール

## 職能委員長会報告

### I 平成30年度 全国職能委員長会 (全体会)

- 日 時 平成30年8月8日(水) 10:00~12:00  
場 所 アルカディア市ヶ谷(私学会館)
- 報告事項 1. 本会役員の紹介  
2. 平成30年度重点政策・重点事業について  
各常任理事より重点事項の担当部分について  
3. 新「会員情報管理体制」について  
4. 平成30年度都道府県看護協会支部役員等研修について

#### 〈保健師職能委員長会〉13:00~16:00

1. 委員長あいさつ・委員紹介
2. 平成30年度日本看護協会保健師関連事業及び保健師職能委員会活動方針について
3. 実践発表・地区別討議  
「行政保健師(統括保健師)と病院等の看護管理者との連携について考える  
～地域包括ケア推進に向けて～」
4. 閉会のあいさつ

#### 〈助産師職能委員長会〉13:00~16:00

1. 委員長あいさつ・委員紹介
2. 平成30年度重点政策・重点事項(助産関連)および助産師職能委員会活動方針について
3. 院内助産・助産師外来の開設推進にむけて  
・『院内助産・助産師外来ガイドライン2018』について  
・「院内助産・助産師外来ガイドライン2018」を活用した組織の自己点検 ～現状と課題～
4. 助産関連事業の推進にむけて  
・都道府県看護協会助産師職能委員長に求められる役割について  
・グループ討議
5. 委員長まとめ

#### 〈看護師職能委員長会 I 病院領域〉13:00~16:00

1. 委員長挨拶・委員挨拶
2. 平成30年度看護師職能委員会 I 病院領域の活動方針について
3. 情報提供「看護記録に関する指針について」
4. グループ討議  
テーマ1「地域包括ケアシステム構築に向けた病院の看護管理者と行政保健師の連携の現状について」  
テーマ2「医療チームにおいて、病棟の看護師がさらに役割を発揮するために必要なことについて」
5. 委員長まとめ

#### 〈看護師職能委員長会 II

##### 介護・福祉関係施設・在宅等領域〉13:00~16:00

1. 委員長あいさつ
2. 平成30年度重点政策・重点事業について
3. 平成30年度活動方針について
4. 講演「介護施設における援助職がおさえておくべき倫理的問題とその対応」
5. 講演「診療所で働く看護職の現状について」
6. 地区別グループ討議  
テーマ:①「看護管理者が考えるべき労働者及び療養者のリスク管理」または  
②「訪問看護、介護施設、診療所等で働く看護職の課題と情報共有による組織強化策(特に診療所)」

### II 平成30年度 地区別職能委員長会

#### (関東・甲信越地区)

- 日 時 平成30年10月26日(金) 9:00~13:00  
場 所 ヨコハマ グランドインターコンチネンタルホテル

#### 〈保健師職能委員長会〉

- 委員長あいさつ
1. 報告事項  
・保健師関連事業報告及び保健師職能委員会報告
  2. 討議  
(1)地域包括ケアシステム構築に向けた統括保健師の配置の推進と行政保健師(統括保健師)の

役割の明確化について

- ・病院看護管理者と行政保健師（統括保健師）の連携について

(2)保健師のキャリア形成の推進について

- ・人材育成計画（キャリアラダー等）の策定・活用について
- ・系統的な現任教育体制の推進について
- ・地域包括ケアシステムにおける保健師のキャリアラダーB表の活用について

(3)ネットワーク及び組織強化に関する取組みについて

(4)産業保健に関する取組みについて

(5)その他

#### 〈助産師職能委員長会〉

委員長あいさつ

1. 助産師職能委員長の自己紹介および助産師職能委員長としての課題の共有
2. 平成30年度 日本看護協会の助産関連事業の取組みについて
  - (1) 平成30年度 日本看護協会重点政策・重点事業（助産関連）事業報告
  - (2) 2018年 国際助産師連盟（ICM）地域会議/助産学術集会について
  - (3) その他
    - ①厚生労働省 平成32年度 看護関係予算概算要求の概要について
    - ②平成30年度 都道府県看護協会教育担当者会議「助産師の必要人数算出の考え方（実践編）DVDの活用」・「CLoCMiP?レベルⅢ認証の要件になる研修」について
    - ③第8回 産科医療補償制度 再発防止に関する報告書：「遅発一過性徐脈と変動一過性徐脈の鑑別」について
    - ④無痛分娩の安全な提供体制の構築に関する提言について
3. グループ討議
  - 「都道府県看護協会助産師職能委員長の役割」について
  - ①各都道府県看護協会における助産関連事業の共有と課題の検討

②『平成30年度 都道府県看護協会助産師職能委員会の活動に関する情報収集』の結果共有

③②をもとに、都道府県の実情に沿った助産関連事業推進の検討

委員長まとめ

#### 〈看護師職能委員長会 I 病院領域〉

開会、委員長あいさつ

報告事項 1. 職能委員会報告

2. その他

協議事項 1. 医療チームにおける病棟の看護師のさらなる役割発揮に向けた方策について

2. 地域包括ケアシステム構築に向けた病院の看護管理者と行政保健師の連携の強化に向けた課題について

3. その他

その他 1. 都道府県看護協会看護師職能委員会 I 病院領域の活動について

2. その他

#### 〈看護師職能委員長会 II

介護・福祉関係施設・在宅等領域〉

報告事項 1. 看護師職能委員会 II 報告（4～8月活動報告）

グループ討議 1. 訪問看護、介護施設、診療所等で働く看護職の課題発見と情報共有による組織強化策の検討

（特に診療所勤務の看護職に関する課題・情報収集）

2. 看護管理者が考えるべき労働者及び療養者リスク管理についての検討



## 常任委員会及び推薦委員会報告

### 教 育 委 員 会

委員長 大坂美穂

#### I 活動のまとめ

所掌事務	看護職の資質の向上に関すること
諮問事項	<p>超高齢社会を見据えた生涯教育のあり方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質の高い看護を提供するための人材育成</li> <li>・会員にとって魅力ある研修の検討</li> </ul>
現状と課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 研修プログラムの昨年度検討したラダー表記については、受講者や管理者も研修選択の目安となるため、日本看護協会の動向を確認し導入できるようにしていく。</li> <li>2 生涯学習計画について意見を求められている。現状の研修プログラムが会員の研修ニーズや社会情勢を反映した内容となっているのか、受講率を併せ検討し提言を行う。</li> <li>3 地域や病院の規模による研修ニーズに違いがあるのか、中小規模病院の研修状況や地域による研修ニーズを把握しておく必要がある。</li> <li>4 人材育成に直結する実習指導者講習会、看護管理者研修サードレベルが当協会で実施されていないことから、その必要性や実施の是非について検討を行う必要がある。</li> </ol>
検討内容	<p>〔検討内容・過程〕</p> <p>〔委員会開催状況：6回開催（別紙に詳細を記載）〕</p>
検討結果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 診療報酬に直結している研修は応募者が多いため、研修回数や定員増加など柔軟な対応を要望する。また、新規研修は企画に困難を伴うことも多く、好評価に直結しなくても経過をみることも大切である。</li> <li>2 受講率が低い研修について、受講者数の設定が妥当であるのか検討し、医療安全管理者養成研修会については100名が妥当とした。</li> <li>3 医療機関看護部門調査および地区部会研修会テーマを資料に検討した結果、地区による研修ニーズの違いは認められなかった。また、地区担当者は、研修の講師選定や謝金の問題などで困難を感じていた。</li> <li>4             <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 実習指導者講習会は千葉県委託研修であり、当協会は予算的な要件が他の応募施設より不利である。そのため、看護協会として実習指導者の質の担保を千葉県に引き続き要望し続ける。</li> <li>2) 認定看護管理者教育課程サードレベルの開講について、他の地方都市では看護協会が実施している現状がある。受講者数の確保が懸念されるがサードレベル研修を受講する価値を施設の管理職が見出してくれば、資格取得を推進できる。認定看護管理者による看護管理を実践している病院の看護の質の担保は一定の評価が得られている現在、千葉県内に認定看護管理者を増やす取り組みは必要である。近隣の都県ではサードレベル研修を開催する教育機関が複数存在するが、研修対象者が長期間業務を離れることが困難な管理者であるということと、180時間という研修期間の長さなどから近隣での研修受講の機会は研修受講動機に大きく影響すると考えられるため、千葉県看護協会での開催を望む。</li> </ol> </li> </ol>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設長に認定看護管理者育成のニーズを把握する必要がある（アンケートを実施）。</li> <li>・受講料の値上げによる会員のニーズの変化及び研修受講者数の動向に注目する。</li> <li>・各研修の受講者数をさらに増やすには、魅力のある講師陣にする必要がある。そのため講師を開拓していく必要がある。</li> </ul>

## II 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	7月17日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 委員長・副委員長・書記選出</li> <li>2 平成30年度教育委員会諮問事項について</li> <li>3 現状と課題</li> <li>4 年間事業計画について</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 委員長：大坂委員、副委員長：大西委員、書記：委員を選出した。</li> <li>2 内山常任理事より平成30年度教育委員会諮問事項を3点提示、説明された。</li> <li>3 現状と課題を確認・諮問事項に基づき現状と課題について論議した。・研修プログラムのラダー表記については、受講者や管理者としても目安となるため、昨年度検討したラダー表記を導入できるように日本看護協会の動向を確認していく。</li> <li>4 委員会開催計画を立案した。</li> </ol>
第2回	9月7日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 平成30年度研修プログラムの検討</li> <li>2 医療安全管理者養成研修会について</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 委員それぞれの立場から会員や管理者がどのような研修を希望しているか意見交換を行った。会員にとって安価で一定水準の研修を近くで受講できることが協会研修のメリットである。新たな研修は、すぐに成果に結びつかないこともあるため、経過を見ていく事も大切である。</li> <li>2 医療安全管理者養成研修会は診療報酬加算対象研修であるが、施設に1名の受講者で加算がとれるため、診療報酬目的の受講者は飽和しているのではないかと懸念されている。受講率の低下がみられるが低い参加率でないため、定員120名から100名への変更を提案する。</li> </ol>
第3回	10月4日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 都道府県看護協会教育担当者対象研修プログラム「都道府県看護協会における継続教育のプログラム開発」について動画聴講</li> <li>2 実習指導者講習会の千葉県看護協会での開催について</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 他県の教育委員会の活動例が動画で示されたが教育委員会の立ち位置と役割が千葉県とは違いがあった。当委員会では、千葉県看護協会の定款に沿った活動をしていく事を再確認した。</li> <li>2 当協会が開催するメリットとして、千葉市周辺看護師にとっては会場が近く、40日間連続した日程で参加しやすい。しかし千葉県の委託研修であるため他の応募施設より予算的な条件で不利になる。当協会として実習指導者の質の担保について県へ要望を継続していくこととし、当協会として積極的な研修開催は行わないことを提言する。</li> </ol>
第4回	11月6日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 中小規模施設の研修ニーズの把握について</li> <li>2 会員にとって魅力ある研修の検討</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 地区部会研修テーマ、医療機関看護部門調査から検討を行った。結果、参考資料からは地区によるニーズの違いはなかった。高名な講師へのアクセスや謝金の問題等、企画したい研修はあるが実施は難しく、研修企画に困難を感じていた。</li> <li>2 研修内容だけでなく研修を申し込みやすいシステムも重要である。研修対象者の明確化、担当者の負担軽減のため決定通知日、振込日を事前に決めておくなどが必要である。</li> </ol>

回数	開催月日	議 題	内 容
第5回	1月23日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 会員にとって魅力ある研修の検討</li> <li>2 千葉県看護協会での認定看護管理者のサードレベル開講についての検討</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 昨年度まで検討していたJNAラダーと連動した継続教育が次年度から導入になることを報告。</li> <li>2 認定看護管理者サードレベル開講について、他の都道府県の現状を見てみても、特に地方都市については看護協会が実施しているのが現状。サードレベルを受講することによる価値を施設の管理職が見出してくれば、資格取得を推進できる。千葉県内には大学院が多くあり認定の受験資格にはなるが、研究が目的であるため千葉県内に、サードレベル研修を開催する教育機関が必要であり、利便性などから千葉県看護協会での開催を望む。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設長に認定看護師育成のニーズについてアンケートを実施する必要がある。</li> <li>・サードの受講者を確保するには、ファースト・セカンドの開催回数と定員数増員が必要ではないか。</li> </ul> </li> </ol>
第6回	2月22日	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 次年度への課題の検討</li> <li>2 年間のまとめ</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 受講料が安く、近隣で受講しやすいことがメリットの千葉県看護協会の研修であったが、値上げによって研修受講者数が減少するのではないか。</li> <li>2 受講者数をさらに増やすには、魅力のある講師陣にする必要がある。そのため講師を開拓していく必要がある。教育委員会としても講師の推薦などを積極的に関わっていきたい。</li> <li>3 教育委員会として、研修の収支面からも検討していくべきではないか。研修目標とその評価を全体的に見ていく必要があるのではないか。講師を選択するシステムも構築する必要がある。</li> </ol>

# 労働環境改善委員会

委員長 栗原 サキ子

## I 活動のまとめ

所掌事務	働き続けられる職場環境づくりの推進に関すること
諮問事項	働き続けられる職場環境づくりを推進するための戦略 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーク・ライフ・バランスの推進</li> <li>・潜在看護職員等の再就業支援</li> </ul>
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・働き続けられる職場環境をつくる為に、管理者が労働について理解する必要がある。しかし、労働について教育を受ける機会が少ない。ゆえに労働について理解してない管理者が多い。</li> </ul>
検討内容	<p>〔検討内容・過程〕</p> <p>〔委員会開催状況：6回開催（別紙に詳細を記載）〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理者が労働について理解してもらう為の支援が必要</li> <li>・大規模病院に比べて小規模の病院が人員確保・労務管理に苦労しているという声もあるため、手を差し伸べられるようにしたい。</li> </ul>
検討結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○働き続けられる職場環境づくりを推進するための戦略として労務管理に必要な知識である法律や制度の周知や、知識を得るための研修会の企画を実施し、人を管理する立場の方（看護部長・師長）に正しい労務管理を知ってもらう必要がある。</li> <li>○また再就業支援の強化として、 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ナースセンターとして信頼ができる職場を紹介しているというポイントをもっとアピールすること</li> <li>・eナースセンター登録のシステムの簡素化。</li> <li>・登録者の基準の見直し（退職する際に既に転職先が決まっている際には届出不要等）以上の提案をすることとなった。</li> </ul> </li> </ul>
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・労務管理の重要性を見出せるような提案をどのようにしていくかが課題。</li> <li>・幅広く労務管理について周知していくための方法の検討が必要</li> <li>・千葉県では、地域でかなりの看護職の体制、労働環境に格差を感じるが、実態の把握はできていない。</li> </ul>

## II 委員会開催状況

回数	開催月日	議題	内容
第1回	7月18日	平成30年度の事業計画の検討について	平成30年度の検討方針に決めるにあたり、現在の看護職員の労働環境に関する課題を議論した。 平成30年度の方針として、離職防止等を通じた看護職員定着のため、管理者が労働について理解してもらう為の支援を検討していくこととした。
第2回	9月12日	・定着確保について (1)管理者への支援の検討 (2)その他の支援の検討	昨今、パワハラが大きくクローズアップされており、大石委員が医療従事者向けに講演をしている研修会でも非常に関心が高い分野となっている。このことから労務管理（パワハラ・管理者としての知識）をテーマとして周知する。
第3回	10月10日	・労務管理の必要性の検討（働き続けられる職場環境づくり推進）	労務管理を周知するにあたり、働き続けられる職場環境とは何か、なにが課題となっているか、検討を行ったところ、サービス残業等、職員に負担をかけてしまっている風土がある等、人を管理する立場の方（看護部長・師長）に正しい労務管理を知ってもらい、働き続けられる職場環境づくりを推進する。
第4回	11月14日	・ワーク・ライフ・バランスの推進の検討	前回に引き続き、ワーク・ライフ・バランスについて検討を行った。 ワーク・ライフ・バランスの推進には働く人々がどのようにしたら、落ち着いた労働環境になるのかを考えるのが必要。 そのためには法律や制度を管理者に周知していくことが必要。
第5回	12月12日	・潜在看護職員等の再就業支援	再就業支援について検討を行うにあたり、主に再就業支援事業を実施しているナースセンターの現状について考察した後、検討を行った。 検討の結果、再就業支援を強化していくには、ナースセンターにおける利便性の向上等を図っていくことが必要との結論となった。
第6回	2月13日	平成30年度の検討の総括	労働環境改善委員会として「ワーク・ライフ・バランス」、「潜在看護職員等の再就職支援」を1年間通じて、協議してきた。 労働について教育を受ける機会が少ない。ゆえに労働について理解してない管理者が多いため、千葉県では、地域でかなりの看護職の体制、労働環境に格差を感じるが、実態として把握ができていない。 そこで労働環境改善委員会としては ・労務管理に必要な知識である法律や制度の周知 ・労務管理に必要な知識を得るための研修会の企画の提案 ・ナースセンターの仕組みの周知とPRが必要である。 ・eナースセンターの登録方法の改善について提案することとした。

# 医療安全委員会

委員長 小賀坂 好子

## I 活動のまとめ

所掌事務	安全で安心な職場環境づくりの推進に関すること
諮問事項	安全な看護を提供するための組織的な推進戦略 ・組織で取り組む安全文化の醸成 ・チーム医療推進のための行政、関係機関、関係職種との連携
現状と課題	現状 医療安全推進の組織的な取組みを推進するため検討 課題 ①チーム医療推進するための多職種連携の推進 ②組織で取り組む安全文化の醸成 ③医療安全を推進するための行政及び関係機関等の連携
検討内容	〔検討内容・過程〕〔委員会開催状況：3回開催（別紙に詳細を記載）〕 今年度、新たな委員メンバーで諮問事項である「安全な看護を提供するための組織的戦略」の答申にあたり、課題の共有を行いながら、検討を重ねてきた。論点は医療安全推進に向け県内の課題に対しどのようなアクションを協会として発信すべきかを具現化する検討である。
検討結果	平成29年度実施した「医療安全管理に関するアンケート調査」結果について今年度再考を行った。「平成29年度医療安全管理に関するアンケート調査」は、諮問事項を検討するにあたり特に医療施設における医療安全推進に関する現状やニーズ等の把握など委員会運営を行う上で貴重な基礎データとなった。さらに、平成24年度実施した「平成24年度医療安全管理に関するアンケート調査」との比較を試み課題となる点についての検討を実施した。 また、委員会に留まらず医療安全担当者地区交流会・医療安全担当者中央交流会・医療安全大会等に参加し臨床現場の声に直接触れながら検討を継続してきた。検討の結果として、既存の医療安全推進に向けての研修会（医療安全担当者地区交流会・医療安全担当者中央交流会）及び医療従事者の意識の向上と組織的取組みの促進から医療安全の普及啓発を図る医療安全大会の一層の充実を図ることを考え活動内容の可視化によるPR方法（インターネットの活用等）についての提案が上がった。 平成29年度「医療安全管理に関するアンケート調査」結果は医療安全推進の組織的な取組を推進するための汎用的な基礎資料として公表する。
今後の課題	平成30年に医療安全対策の推進の観点から医療安全対策地域連携加算が新設された。医療安全対策加算を算定する複数の医療機関が連携し、医療安全対策に関する評価を行うこと等が施設基準となった。諮問事項を検討する中でこれら制度を契機に医療安全推進の組織的な取組を後押しできる思案を検討することが今後の課題となった。

## II 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	8月29日	(1) 平成30年度諮問事項について (2) 平成30年度医療安全委員会年間事業計画についての検討・平成30年度医療安全担当者地区交流会について (3) 第14回医療安全に関する標語について	1. 委員7名及び事務局による自己紹介後、事務局から委員会説明を受け、委員長等の選出、決定がされた。千葉県看護協会医療安全委員会諮問事項の確認。 2. 平成30年度年間事業計画案を策定した。平成30年度医療安全担当者地区交流会への視察参加者の決定。 3. 第14回医療安全に関する標語の第3次選定の実施。

回数	開催月日	議 題	内 容
第2回	9月28日	(1) 平成30年度諮問事項について (2) アンケートの結果を確認し、フィードバック方法、課題の検討 (3) その他	1. 諮問事項について検討する中で、H29年度実施した「医療安全アンケート調査」結果について新たなメンバー間での共有を図りアンケート結果についての意見交換を実施した。フィードバック方法、今後の課題について検討を実施した。 2. 千葉県医師会、千葉県薬剤師会等との医療安全を通じての合同研修会などをテーマに意見交換を行った。
第3回	11月1日	(1) 平成30年度諮問事項について (2) アンケートの結果及びフィードバック方法についての検討 (3) その他	1. 第2回目に引き続き諮問事項の検討に関連のある「H29年度医療安全管理に関するアンケート調査」を基に左記内容の再検討を実施した。また、諮問事項を検討する中で具体的な活動案について意見交換を行った。 2. アンケートのフィードバック方法を看護協会ホームページ上との意見が交わされた。最終決定は次回委員会となる。 3. 医療安全大会打ち合わせ。
第4回	12月7日	(1) 平成30年度諮問事項について (2) 平成30年度 医療安全委員会事業実績報告書（中間）検討 (3) その他	1. 「H29年度医療安全管理に関するアンケート調査」の再検討を実施する。①表紙②アンケート結果概要③アンケート結果④まとめ等について検討し承認と運びとなる。 2. 平成30年度医療安全委員会事業実内容から今後の検討課題について医療安全を推進するための多職種連携や地域内での連携（研修会等も含む）とした活動の推進が望まれるのではないかと意見が交わされた。
第5回	1月17日	(1)平成30年度諮問事項について ①県内の実態から多職種連携推進に向けての検討 ②医療安全を推進するための提案 (2)その他 ①平成29年度医療安全管理に関するアンケート調査の公表について ②平成30年度医療安全担当者中央交流会について	1. 検討課題としてあがった多職種連携推進に向けての検討を行った。検討結果として、千葉県看護協会が実施している医療安全担当者地区交流会の運営方法について①参加PRの明確化②多職種が参加しやすい曜日の検討などが上がった。 また、医療安全大会では①主催に各職能団体（後援となっている職能団体）の参加②新たに立ち上がっている職能団体の会や学校関係、行政関係等への働きかけを提案し委員の所属に持ち帰り検討することとなった。
第6回	3月8日	(1)平成30年度諮問事項について ①各職能団体や施設において検討した内容について再検討し、委員会としての答申を検討しまとめる (2)平成30年度 医療安全委員会事業実績報告書（まとめ）検討 (3)その他 ①平成31年度の委員会日程について	1. 諮問事項について多職種連携推進に向けては、委員メンバーがそれぞれの所属に多職種連携の働きかけを推進するための検討を行った。結果、次年度新たな体制になってから本格的に周知していく。今後の課題とし継続事項とする。 2. 医療安全委員会事項実績報告にあたり検討を行った。現在実施されている医療安全に関連する研修会や医療安全大会を一層充実させることが望まれると考え、多職種への呼びかけ、PRや参加しやすい日程の検討などを行った。医療安全大会、地区交流会、中央交流会など、インターネットの活用（動画配信など）を図ってみたいかどうかの意見が出た。活動内容が可視化できるとともに、次回参加の呼び水になりうる。 3. 平成29年度医療安全管理に関するアンケート調査について再度検討を実施した。 4. その他、次年度初回委員会日程5月24日（金）とした。

# 広 報 委 員 会

委員長 伊藤 淳子

## I 活動のまとめ

所 掌 事 務	協会及び看護の広報に関すること
諮 問 事 項	協会の広報戦略 <ul style="list-style-type: none"> <li>・会員・非会員に対する広報</li> <li>・これから看護職を目指す者への広報</li> <li>・県民に対する広報</li> </ul>
現 状 と 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機関誌である「看護ちば」が会員に読まれていない可能性が高いため会員の興味を引くような掲載内容を検討</li> <li>・会員・非会員に向けての広報活動の検討</li> </ul>
検 討 内 容	<p>〔検討内容・過程〕</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予算等を踏まえて委員会での提案を模索</li> <li>・会員増加に向けての広報活動について</li> <li>・県民向けの協会ホームページの改修</li> <li>・「看護ちば」の掲載内容・サブテーマの検討</li> </ul> <p>〔委員会開催状況：6回開催（別紙に詳細を記載）〕</p>
検 討 結 果	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 「看護ちば」への掲載内容について提案 <ul style="list-style-type: none"> <li>・新人看護師・2年目看護師へのエール、認定看護師の活動の掲載</li> <li>・倫理綱領の事例提供</li> <li>・地区探訪・サブテーマの検討</li> </ul> </li> <li>2) 将来看護職を目指す者へ広報活動、会員増の為の活動検討 <ul style="list-style-type: none"> <li>・著名人による講演</li> </ul> </li> <li>3) 協会ホームページ改修に向けての提案</li> </ol>
今 後 の 課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協会との情報交換が可能となっており、今後も充実を図る</li> <li>・協会ホームページの改修が進んでいないため、意見を提案して確認していく</li> </ul>



## II 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	7月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間事業計画作成</li> <li>・「看護ちば」への掲載内容について提案</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開催日の決定</li> <li>・「看護ちば」への掲載内容について、10月号の提案</li> </ul>
第2回	9月20日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「看護ちば」1月号掲載の提案について</li> <li>・将来看護職を目指す者への広報（具体案）の検討</li> <li>・協会ホームページの改修に向けての検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「看護ちば」1月号掲載の提案について</li> <li>・入会促進のための広報活動を提案した</li> <li>・現状のホームページへの意見交換を行った</li> </ul>
第3回	10月31日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「看護ちば」掲載の提案について</li> <li>・千葉県看護協会入会促進事業について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「看護ちば」掲載の提案について</li> <li>・保健師の入会状況の把握</li> </ul>
第4回	11月15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中間実績まとめ</li> <li>・保健師の入会促進について</li> <li>・入会促進事業に向けての講師依頼について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入会率の低い地域への調査依頼の提案</li> <li>・講師の検討</li> <li>・アンガーマネジメントの連載執筆者の候補者提案</li> </ul>
第5回	1月17日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「看護政策推進のための組織強化事業推進委員会」出席報告</li> <li>・「看護ちば」について</li> <li>・県民に向けての広報</li> <li>・「看護職の倫理綱領について」</li> <li>・看護ちばの表紙のサブテーマについてアイデア検討</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員増促進について検討した</li> <li>・「看護ちば」について掲載案を提案した</li> <li>・高齢化への対応について</li> <li>・事例検討することとした</li> <li>・次回の委員会で検討</li> </ul>
第6回	2月26日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年間実績まとめ</li> <li>・7月号「看護ちば」について</li> <li>・「看護ちば」のサブテーマについて</li> <li>・「倫理綱領」について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・認定看護師・専門看護師についての特集と認知症予防についての掲載を提案</li> <li>・サブテーマは特集内容により決定してはどうか</li> <li>・倫理綱領の担当決定</li> </ul>

# 会員増促進委員会

委員長 石井 久美子

## I 活動のまとめ

所掌事務	会員増の促進に関すること
諮問事項	会員を増やすための戦略 ・会員増の具体的方策 ・会員増を考慮した協会事業の進め方
現状と課題	新規・再入会の促進 継続会員への勧奨 看護学生に向けた協会案内 地域別の入会率の格差 職能別の入会率の格差(保健師・領域Ⅱ・准看護師)
検討内容	〔検討内容・過程〕 1 保健師職能集会・助産師管理者交流会及び准看護師交流会におけるPR 2 看護学生に向けたPR 3 看護政策推進のための組織強化事業について 4 会員増への提案(チラシ・ホームページ) 5 訪問看護ステーションへのアプローチ 6 地区部会長会議でのアンケートの実施 7 地区別入会率の格差についての検討 〔委員会開催状況：5回開催(詳細は、Ⅱ.委員会活動状況)〕
検討結果	1 計画したが各職能委員会にて実施することとなる 2 11月18日の看護学生看護研究発表会にてチラシ配布(21校) 3 チラシの修正及びホームページ修正案の提言 4 訪問看護ステーション協会との連携 ・アンケート調査の協力依頼 ・訪問看護師向け研修のPRチラシの検討 5 地区部会長会議でのアンケートの結果からの提言及び地区研修会における入会案内説明文の原案作成 6 各地区別入会率の格差の現状からの意見交換
今後の課題	○看護政策推進のための組織強化事業についての検討 ○産休・育休及び定年後の入会継続に向けた検討 ○入会手続きの簡素化に向けた検討 ○研修時の入会PRの効果についての検討(非会員の入会率等)

## II 委員会活動状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	9月13日	1 平成30年度諮問事項 2 平成30年度会員増促進委員会 事業計画について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諮問事項について</li> <li>・看護政策推進のための組織強化事業について</li> <li>・平成30年度事業計画と進捗</li> <li>・会員増に係る今後の課題</li> </ul>
第2回	10月26日	1 保健師職能集会・助産師管理者交 流会及び准看護師交流会における PR	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職能集会、交流会等の日程、PR方法等検討・ 確認</li> <li>・看護学生に向けたPR内容の検討</li> <li>・看護政策推進のための組織強化事業について</li> </ul>
第3回	11月22日	1 加入率が低い領域へのアプローチ 2 平成30年度中間報告のまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問看護ステーションへのアプローチ方法の検 討</li> <li>・アンケート実施の検討</li> <li>・入会案内チラシの内容検討</li> <li>・平成30年度中間報告まとめ</li> </ul>
第4回	1月11日	1 地区部会長会議でのアンケートの 検討 2 地域別入会率の格差についての検 討	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入会に関連する地区の背景や課題及び会員増に 繋がるアンケートについての提案</li> <li>・地区部会長会におけるヒヤリングの提案</li> </ul>
第5回	2月21日	1 入会状況の確認 2 地区部会長会におけるアンケート 結果からの検討 3 職能集会・地区部会研修会等にお ける非会員への入会案内説明文の 原案作成 4 平成30年度のまとめと次年度への 課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート結果からの意見の取りまとめと新規 の提案事項</li> <li>・次年度の課題の検討</li> </ul>

# 看護研究委員会

委員長 加納 佳代子

## I 活動のまとめ

所掌事務	看護研究に関すること
諮問事項	看護研究の在り方を見据えた看護研究の発展戦略 ・看護研究学会の活性化 ・看護環境の改善や新しい看護の開発
現状と課題	千葉県看護研究学会は、「看護活動の取り組みを研究として発表し、成果や課題を各施設間で共有することで看護の資質向上を図ること」を目的としており、研究の登竜門的役割を果たしている。千葉県看護協会の主催する学会としての特徴を生かし、会員の看護研究活動の活性化に向けて、必要なサポートを行っていく必要がある。
検討内容	平成30年3月末現在で6回委員会を開催した。 ①看護研究学会の活性化について 日々の看護実践の積み重ねが実践報告や看護研究に繋がるよう、学会のテーマや講演内容について検討した。学会運営に協力し、評価を行った。 ②倫理審査委員会の設置について 施設内で倫理審査委員会等がない会員のための倫理審査機関を協会として設置し保証していくことの是非やあり方について検討した。 ③研究支援の有効活用について どのような形で支援があるか、病院等の施設、看護協会や大学等の教育機関との連携などの必要性など意見交換を行った。
検討結果	①看護研究学会の活性化について 第37回千葉県看護研究学会に関しては、昨年度と同様の方針で実施予定であるが、今年度から学会運営やプログラムに関する参加者の評価を得るためにアンケートを実施した。第38回看護研究学会に向けて、内容の充実を図るべく、プログラムの検討を重ねた。 ②研究支援の有効活用について 千葉県看護協会が主催する看護研究の研修受講の有無等、研究支援の実態調査を行う方針とした。倫理支援に関し、意見交換、討論を行っており、今後も継続して検討していく。
今後の課題	・地域性を活かした千葉県独自の研究学会のあり方について検討する。 ・看護研究支援の有効活用の是非と看護実践の積み重ねが実践報告や研究に活かせるよう研究支援の内容について検討する。 ・看護倫理審査に関する実態・ニーズ調査の実施、倫理委員会等の設置やその役割に関する検討を行う。

## II 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	7月12日	(1)平成30年度諮問事項について (2)現状と課題について (3)平成30年度看護研究会年間活動計画について (4)第37回千葉県看護研究学会について	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護研究委員会の位置づけ、規定、諮問事項等の確認を行い、看護研究に関する現状と課題について意見交換を行った。</li> <li>第37回千葉県看護研究学会について、学会、講演テーマを検討した。</li> </ul>
第2回	8月17日	(1)諮問事項に関する現状確認と方向性について (2)看護研究学会について ・第37回千葉県看護研究学会企画の確認・検討	<ul style="list-style-type: none"> <li>看護研究会の活動方針について検討した。倫理審査の体制、地方の学会としての役割等、意見交換を行った。</li> <li>第37回千葉県看護研究学会の特別講演、ミニレクチャーのテーマ、講師（案）を検討。</li> </ul>
第3回	9月28日	(1)演題評価者実施要領について (2)学会運営について (3)諮問事項について	<ul style="list-style-type: none"> <li>演題評価者実施要領、本学会の名称について検討</li> <li>第37回千葉県看護研究学会について、ワークショップの内容を検討した。</li> <li>学会の活性化に向け、倫理審査に関する調査の必要性について議論した。また、学会に関し、参加者の意見が反映されるよう参加者へのアンケートの実施が必要等、意見交換した。</li> </ul>
第4回	11月26日	(1)学会運営に関すること ・第37回千葉県看護研究プログラムについて ・ポスターについて ・学会における看護研究会の役割と今後の予定について (2)諮問事項について	<ul style="list-style-type: none"> <li>第37回千葉県看護研究学会の準備状況について確認し、当日の看護研究員の役割を決定した。</li> <li>今年度企画された「研究こぼれ話」のワークショップは次年度実施できるよう引き続き検討。</li> <li>学会参加者へのアンケート、研究支援コーナー来所者への調査等の必要性について検討した。</li> <li>看護研究支援の有効活用、研究倫理審査委員会について意見交換を行った。</li> </ul>
第5回	1月10日	(1)看護研究学会の運営の確認について	<ul style="list-style-type: none"> <li>第37回千葉県看護研究学会の当日の運営、評価について確認した。</li> <li>第38回千葉県看護研究学会要項（案）について検討した。</li> </ul>
第6回	3月18日	(1)看護研究学会の運営の総括 (2)優秀論文候補選考について (3)来年度の学会運営について	<ul style="list-style-type: none"> <li>第37回千葉県看護研究学会評価、運営について討議した。</li> <li>優秀論文候補選考について確認し意見交換した。</li> <li>第38回千葉県看護研究学会の課題について意見交換した。</li> </ul>

# 推 薦 委 員 会

委員長 鈴木美香

## I 活動のまとめ

所掌事務	役員等・推薦委員候補者及び職能委員の推薦
諮問事項	改選役員等・委員等の推薦 1 改選役員、推薦委員、職能委員候補者の推薦 2 公益社団法人日本看護協会通常総会代議員等候補者の推薦
現状と課題	1 2019年度に改選する新規役員（理事4名、保健師職能委員2名、助産師職能委員3名、看護師職能委員〈領域Ⅰ〉4名、〈領域Ⅱ〉2名、推薦委員7名）、継続役員（副会長1名、看護師職能理事1名、監事1名、保健師職能委員1名、助産師職能委員1名、看護師職能委員〈領域Ⅱ〉1名）について推薦する。 2 2020年度公益社団法人日本看護協会総会代議員は28名で、代議員・予備代議員候補者合計60名を推薦する。
検討内容	〔委員会開催状況〕：計4回開催（別紙に詳細を記載） 〔検討内容・過程〕 諮問事項について年間計画を立案し、役割分担を進めた。協会の協力を得て、各役員の委員会等の業務内容・開催回数を確認した。・人選の際は、地域が偏らないように配慮したことを共通認識した。その後、役割分担の進捗状況一覧表を作成し、メールで情報共有しながら人選を行った。
検討結果	2019年度の改選する理事4名、職能委員11名、推薦委員7名の推薦となった。4回の会議とメールでの会議の結果、3月までに人選することができた。
今後の課題	・日本看護協会通常総会代議員・予備代議員の候補者の推薦にあたってのスケジュールの明確化 ・保健師と准看護師の推薦は、看護協会への入会者が少ないことが課題となる。

## II 委員会開催状況

回数	開催月日	議 題	内 容
第1回	9月10日	1 会長挨拶 2 委員紹介 3 推薦委員会設置について 4 推薦委員会の諮問事項について	委員長・副委員長・書記決定。 ・所掌事務に関する現状と課題 ・平成30年度諮問事項について ・30年度活動計画作成
第2回	10月25日	1 意向状況の確認 2 打診の方法について検討 3 役割分担	進捗：今期で任期終了者の確認について (別紙配布)
第3回	12月12日	1 意向確認 2 推薦予定を決定 3 日本看護協会代議員・予備代議員候補者の推薦スケジュール確認	進捗確認・調整
第4回	3月14日	1 最終候補者の報告 2 日本看護協会代議員・予備代議員候補者の内諾確認 3 次年度の課題検討	年度のまとめ作成

# 特別委員会報告

## ナースセンター運営委員会

委員長 寺口 恵子

本委員会は、「看護師等の人材確保の促進に関する法律」第15条の規定に基づいたナースセンター事業について協議することを目的として設置されている。

本年度は日本看護協会から受託した「平成30年度地域に必要な看護職確保推進モデル事業」の実施のため、下部組織である「看護職確保推進モデル事業推進部会」を設置し、13名の委員により、年間3回開催した。また、推進部会は12名の部会員で年間5回開催した。

議事は下記に示すとおり、前年度の事業実績と本年度の事業計画に加え、モデル事業の取組について報告し、助言を得た。

### 【ナースセンター運営委員会 3回開催】

議事

1. 平成29年度千葉県ナースセンター事業報告
2. 平成30年度千葉県ナースセンター事業計画
3. 看護職確保推進モデル事業推進部会設置
4. 看護職確保推進モデル事業計画
5. 看護職確保推進モデル事業進捗状況
6. 看護職確保推進モデル事業報告

### 【モデル事業推進部会 5回開催】

議事

1. モデル地区における看護職確保に関する現状と課題の共有
2. モデル地区における看護職確保に関する課題と対策の検討
3. 看護職確保推進モデル事業のまとめ

推進部会は、モデル地区である千葉市の医師会・医療機関・訪問看護事業所・福祉施設の代表、看護師等学校養成所（市立・県立）、行政（市・県担当部署）、協会職員で構成し、看護職の確保に関する自組織の現状・課題及び取組んでいる対策について情報共有・検討を実施した。その結果、訪問看護事業所の地域連携を活かした人材育成と定着の方策、中小規模病院の教育体制整備や学生時代からの就業に向けた支援の重要性などが話し合われ、運営委員会において県全体としての取り組みに反映するとともに、次年度も推進部会を開催し、課題解決に向けて継続して支援することとした。

## 認定看護管理者教育課程運営委員会

委員長 石渡 祥子

本委員会は、千葉県看護協会認定看護管理者教育課程運営規程（以下運営規程）に基づき、教育課程の目的を達成するために企画運営及び修了審査に関する事項の審議機関として設置されている。

平成30年度の委員構成は、教育関係者4名、病院看護管理者2名、千葉県関係者1名、協会関係者4名の合計11名である。委員会開催は4回で、審議・報告事項は以下のとおりである。

### 【第1回 平成30年7月10日】

- 1 平成30年度第18回認定看護管理者教育課程セカンドレベル（以下セカンドレベル）の受講者選考・決定について
- 2 平成31年度新カリキュラムについて
- 3 認定看護管理者教育課程運営委員会細則について

### 【第2回 平成30年9月7日】

- 1 平成30年度第37回認定看護管理者教育課程ファーストレベル（以下ファーストレベル）の修了審査について
- 2 平成31年度新カリキュラムについて
- 3 ファーストレベルのアンケート結果について
- 4 ファーストレベルの進捗状況及び特別講演について

### 【第3回 平成31年1月8日】

- 1 セカンドレベルの修了審査について
- 2 2019年度認定看護管理者教育課程募集要項・カリキュラムについて
- 3 平成30年度認定看護管理者教育課程のアンケート結果について

### 【第4回 平成31年4月15日】

- 1 2019年度第38回ファーストレベルの受講者選考・決定について
- 2 2019年度ファースト・セカンドレベルの統合演習について
- 3 2019年度ファースト・セカンドレベルの日程・講師について

### 【30年度実績】

- 1 ファーストレベル開催（6/15～7/27）  
修了者92名（受講者全数）
- 2 セカンドレベル開催（9/4～11/30）  
修了者27名（受講者28名）
- 3 平成29年度セカンドレベル修了者の看護管理実践報告会開催（平成30年10月5日）  
修了生31名中26名が発表
- 4 セカンドレベル修了証明書授与式の特別講演をセカンドレベル修了者の公開講座を開催し8名が受講した。



---

---

# 特別委員会報告

---

---

## 災害対策委員会

委員長 石井 美恵子

本委員会は、千葉県看護協会災害対策委員会設置要綱に基づき、千葉県内外において災害に対し、本協会が他団体との連携のもと、迅速かつ効果的な支援活動を行うにあたり必要な事項について検討することを目的としている。委員は、学識経験者、病院看護管理者、訪問看護ステーション所長、災害支援ナース、行政機関職員（県・市）、当協会理事から構成された10名である。本年度は2回開催し、審議事項は以下のとおりである。

### 【審議事項】

1. 自治体の医療調整本部における連携の在り方
2. 「災害救護対応マニュアル」の改訂について
3. 看護管理者向け研修会について
4. 今後の災害対策に関する課題等について

### 【平成30年度総括】

- ・自治体の医療調整本部における連携の在り方について、千葉県内で大規模災害が発生した場合に災害支援ナースの派遣要請を迅速、かつ円滑に実施するため県庁内に設置される「災害医療対策本部」に看護協会ブースの設置について委員会から提案があった。これを受け、本協会から県担当課へ協議を申し入れたところ、ブース設置について前向きな検討をしたいと回答を得たので働きかけを続けていきたい。
- ・「災害救護対応マニュアル」の改訂については、「千葉県が被災地となった場合の災害支援ナースの要請・派遣の流れ」のフローについて説明を加えわかりやすくしたこと、また災害拠点病院一覧図を直近に更新するなど、改訂し会員施設へ配布した。
- ・災害支援ナースの派遣要請には看護管理者の理解を深めることが重要であると委員会の中で審議されており、平成30年度第2回施設等会員代表者会において本委員会の委員長より、「看護管理者が取り組むべき災害医療の備え」のテーマで研修会を開催し190名の看護管理者が参加した。
- ・平成31年度から「災害対策委員会」を常任委員会として設置し、予想される様々な状況に対応する災害支援体制の充実・強化を図ることとなり、災害支援ナースの増員、受援体制整備などについて検討を進めていく。

メ 毛

メ 毛

## 令和元年度 千葉県看護協会会長表彰

氏 名	施 設 名	氏 名	施 設 名
青 柳 純 子	千葉大学医学部附属病院	茅 野 昌 子	独立行政法人地域医療機能推進機構 船橋中央病院
西 森 順 子	千葉大学医学部附属病院	山 田 洋 子	公益財団法人復光会 総武病院
レ ン 寿 枝	千葉大学医学部附属病院	幸 田 弘 美	公益財団法人復光会 総武病院
小野尾 聖 子	千葉大学医学部附属病院	吉 岡 えり子	公益財団法人復光会 総武病院
君 塚 礼 子	千葉大学医学部附属病院	小 稲 文	鎌ヶ谷市役所 健康増進課
齊 藤 恵	千葉大学医学部附属病院	藤 井 弘 子	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター国府台病院
酒 井 郁 子	千葉大学大学院 看護学研究科	古 山 千 尋	東京歯科大学市川総合病院
佐 藤 奈 保	千葉大学大学院 看護学研究科	柳 下 陽 子	東京歯科大学市川総合病院
星 宮 たか子	千葉市立青葉病院	田 代 るみ子	東京歯科大学市川総合病院
福 田 道 子	千葉市立青葉病院	篠 塚 里 恵	東京歯科大学市川総合病院
芳 岡 理 恵	千葉市立青葉病院	小 倉 雅 子	東京歯科大学市川総合病院
金 卷 敏 子	国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構QST病院	泉 博 子	東京歯科大学市川総合病院
井 下 綾 子	千葉県救急医療センター	木 村 美 保	東京歯科大学市川総合病院
塩 屋 優 子	医療法人社団普照会 井上記念病院	小 玉 姫美子	東京歯科大学市川総合病院
宮 脇 とみ子	医療法人社団普照会 井上記念病院	後 藤 喜 美	東京歯科大学市川総合病院
二 瓶 律 子	公益社団法人 千葉県看護協会	松 田 陽 子	東京歯科大学市川総合病院
横 土 由美子	千葉県がんセンター	神 坂 裕 子	東京歯科大学市川総合病院
舘 川 亜希子	千葉県がんセンター	池 澤 亜 矢	公益社団法人地域医療振興協会 東京ベイ・浦安市川医療センター
山 添 充 代	千葉県がんセンター	鷲 岳 晶 美	松戸市立総合医療センター
小 出 光 子	千葉県がんセンター	重 永 晴 美	松戸市立総合医療センター
高 橋 みどり	千葉県がんセンター	井之浦 博 世	松戸市立総合医療センター
黒 髪 博 子	千葉県がんセンター	佐々木 友 美	松戸市立総合医療センター
川 上 正 子	独立行政法人国立病院機構 千葉東病院	車 由美子	松戸市立総合医療センター
荒 澤 吟	独立行政法人国立病院機構 千葉東病院	遠 藤 可 衣	松戸市立総合医療センター
高 田 美由紀	独立行政法人地域医療機能推進機構 千葉病院	伊 藤 理 子	松戸市立総合医療センター
岡 田 美津枝	独立行政法人地域医療機能推進機構 千葉病院	佐 藤 弘 美	松戸市立総合医療センター
米 良 尚 美	医療法人社団誠馨会 千葉メディカルセンター	廣 田 由美子	松戸市立総合医療センター
高 木 真由美	医療法人社団誠馨会 千葉メディカルセンター	山 田 知加子	松戸市立総合医療センター
片 岡 昭 子	医療法人柏葉会 柏戸病院	福 井 美佐緒	松戸市立総合医療センター
清 水 芳 江	千葉県千葉リハビリテーションセンター	長 妻 純 子	松戸市立総合医療センター
高 石 雅 子	千葉県千葉リハビリテーションセンター	矢 吹 千 恵	松戸市立総合医療センター
飯 田 直 子	千葉県千葉リハビリテーションセンター	嶋 田 亜矢子	松戸市立総合医療センター
佐々木 律 子	千葉県千葉リハビリテーションセンター	七 田 薫	松戸市立総合医療センター
青 木 ゆかり	千葉県千葉リハビリテーションセンター	黒 滝 悦 子	松戸市立総合医療センター
島 田 奈 美	市原市役所	今 井 三枝子	IMSグループ 医療法人財団明理会 新松戸中央総合病院
武 藤 多恵子	市原市役所	落 合 幸 代	キッコーマン総合病院
鎌 田 あゆみ	社会福祉法人恩賜財団済生会 千葉県済生会習志野病院	木 村 まり子	キッコーマン総合病院
水 川 忍	社会福祉法人恩賜財団済生会 千葉県済生会習志野病院	北 島 裕 子	キッコーマン総合病院
本 郷 雅 人	医療法人社団保健会 谷津保健病院	松 坂 恵 美	キッコーマン総合病院
形 屋 かおり	独立行政法人地域医療機能推進機構 船橋中央病院	鈴 木 麻 子	キッコーマン総合病院

氏名	施設名	氏名	施設名
小柳 由美子	成田赤十字病院	菅谷 充子	公立長生病院
杉山 早苗	成田赤十字病院	島津 清美	公立長生病院
菊地 早苗	成田赤十字病院	柴崎 照子	公立長生病院
鈴木 久美子	成田赤十字病院	新山 睦美	公立長生病院
桜井 一枝	成田赤十字病院	羽場 信江	公立長生病院
岩崎 さち子	成田赤十字病院	星野 みゆき	いすみ医療センター
加納 由佳	成田赤十字病院	吉田 和美	いすみ医療センター
柳井 律子	成田赤十字病院	泉水 祐子	国保直営総合病院 君津中央病院
上原 晴美	成田赤十字病院	榛澤 哲子	国保直営総合病院 君津中央病院
五十嵐 玲子	成田赤十字病院	藤原 久美	国保直営総合病院 君津中央病院
小竹 英子	成田赤十字病院	榎本 隆子	国保直営総合病院 君津中央病院
渡邊 さち子	成田赤十字病院	廣川 斎美子	国保直営総合病院 君津中央病院
秋葉 洋子	医療法人積仁会 島田総合病院	和泉 賀要子	国保直営総合病院 君津中央病院
根本 佳津江	千葉県立佐原病院	橋本 容子	国保直営総合病院 君津中央病院
金親 朱美	千葉県立佐原病院	梶川 祥代	国保直営総合病院 君津中央病院
高木 由紀子	千葉県立佐原病院	山村 智子	国保直営総合病院 君津中央病院
茂木 鈴枝	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	宇佐美 聡子	国保直営総合病院 君津中央病院
伊藤 成美	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	井手 麻里子	国保直営君津中央病院 大佐和分院
片山 佳代子	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	鈴木 春美	社会福祉法人太陽会 安房地域医療センター
向後 房江	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	横山 純子	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
飯嶋 直美	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	山崎 孝子	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
木内 孝子	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	野山 幸子	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
赤塚 さつき	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	川名 清子	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
松羽 理香	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	萩原 美奈	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
越川 美和子	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	佐久間 明美	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
宮本 頼子	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	多田 みどり	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
多辺田 勝一	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院	三井 陽子	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
平山 ゆう子	国保匝瑳市民病院	滝口 智子	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
塚本 暁美	国保匝瑳市民病院	神作 聖美	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
小川 直美	国保多古中央病院	小原 里枝子	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
鍋木 妙子	国保多古中央病院	平野 久美子	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
須合 真紀	国保多古中央病院	飯塚 裕美	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
森 ひとみ	国保多古中央病院	古谷 直子	医療法人鉄蕉会 亀田総合病院
菅谷 小百合	国保小見川総合病院	関根 恵子	学校法人鉄蕉館 亀田医療技術専門学校
小久保 香苗	国保小見川総合病院	中村 京子	鴨川市役所
野中 栄子	国保小見川総合病院	小池 恵子	医療法人光洋会 三芳病院
広瀬 真紀子	地方独立行政法人 さんむ医療センター	宇原 浩次	医療法人光洋会 三芳病院
太田 明子	大網白里市立 国保大網病院	高橋 義明	医療法人光洋会 三芳病院
宮城 理恵	大網白里市立 国保大網病院	平野 浩章	医療法人光洋会 三芳病院
鈴木 由香子	大網白里市立 国保大網病院	中台 和枝	公益財団法人日産厚生会 佐倉厚生園病院

氏名	施設名	氏名	施設名
森川 美也子	公益財団法人日産厚生会 佐倉厚生園病院	秋野 京子	医療法人社団圭春会 小張総合病院
小宮 奈美恵	医療法人社団晴山会 平山病院	奥村 浩子	医療法人社団圭春会 小張総合病院
杉森 久美	船橋市立医療センター	鎌田 雅子	帝京大学ちば総合医療センター
金澤 香織	船橋市立医療センター	曾子 史子	帝京大学ちば総合医療センター
石神 久仁子	船橋市立医療センター	粉川 知子	帝京大学ちば総合医療センター
堺 敦子	船橋市立医療センター	安藤 道子	帝京大学ちば総合医療センター
國吉 由紀子	船橋市立医療センター	御園 なを子	夷隅医師会診療所
古口 瑞紀	船橋市立医療センター	田村 伸子	東京慈恵会医科大学附属柏病院
渡邊 理恵	船橋市立医療センター	大録 早苗	東京慈恵会医科大学附属柏病院
泉 佐智子	船橋市立医療センター	松本 綾子	東京慈恵会医科大学附属柏病院
吉村 紀子	船橋市立医療センター	北森 由美子	東京慈恵会医科大学附属柏病院
宮澤 邦子	船橋市立医療センター	村上 康子	東京慈恵会医科大学附属柏病院
國吉 美紀	船橋市立医療センター	高田 直美	東京慈恵会医科大学附属柏病院
竹内 淑江	船橋市立医療センター	金成 俊子	東京慈恵会医科大学附属柏病院
三橋 智子	船橋市立医療センター	横山 靖子	東京慈恵会医科大学附属柏病院
藤木 香代子	船橋市立医療センター	松崎 理恵	医療法人社団邦清会 木更津東邦病院
天羽 明子	船橋市立医療センター	志村 順子	医療法人財団みさき会 たむら記念病院
山崎 瑞穂	船橋市立医療センター	滝口 恵子	医療法人弘仁会 板倉病院
山本 育代	船橋市立医療センター	横田 和恵	医療法人思誠会 勝田台病院
節賀 美希	船橋市立医療センター	佐々木 郁子	慈恵柏看護専門学校
山本 理加	船橋市立医療センター	根本 明美	慈恵柏看護専門学校
松尾 芳	医療法人財団東京勤労者医療会 東葛病院	望月 陽子	医療法人社団心和会 八千代病院
尾崎 圭子	医療法人社団 葵会 柏たなか病院	住吉 公子	医療法人社団心和会 八千代病院
西川 恵美子	医療法人明星会 東条病院	中島 恵美子	医療法人社団誠馨会 総泉病院
佐々木 美紀子	順天堂大学医学部附属浦安病院	鈴木 喜代子	医療法人三紫会 小田病院
今度 さやか	順天堂大学医学部附属浦安病院	古市 明子	医療法人三紫会 小田病院
野島 寛子	順天堂大学医学部附属浦安病院	小澤 由美	医療法人三省会 本多病院
近藤 久美子	千葉市立海浜病院	長 篤 忍	医療法人社団鵬会 高名清養病院
武田 美幸	千葉市立海浜病院	赤沼 聡子	千葉県こども病院
土屋 弘子	千葉市立海浜病院	一宮 洋子	千葉県こども病院
町田 裕子	千葉市立海浜病院	川田 留美	千葉県こども病院
大江 美和子	千葉市立海浜病院	武田 智子	千葉県こども病院
伊藤 美保子	医療法人社団協友会 柏厚生総合病院	鎌田 真紀	千葉県こども病院
福田 みどり	医療法人社団心和会 新八千代病院	永田 由美	千葉県こども病院
木村 美聡	特定医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院	堀内 美奈子	医療法人社団創進会 みつわ台総合病院
大友 タミ子	特定医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院	塚越 美由紀	医療法人社団創進会 みつわ台総合病院
織本 貴子	特定医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院	安宅 静江	医療法人社団創進会 みつわ台総合病院
丹野 志保	特定医療法人新都市医療研究会君津会 玄々堂君津病院	前田 和恵	医療法人社団創造会 平和台病院
木幡 裕未子	医療法人みつや会 新八街総合病院	高谷 真由美	順天堂大学医療看護学部
今野 佳織	医療法人鳳生会 成田病院	永野 光子	順天堂大学医療看護学部

氏名	施設名	氏名	施設名
六本木 美 咲	東邦大学医療センター佐倉病院	佐 藤 留美子	医療法人社団誠馨会 セコマメディック病院
高 野 綾 子	東邦大学医療センター佐倉病院	鵜 澤 さおり	地方独立行政法人東金九十九里 地域医療センター東千葉メディカルセンター
松 本 理 恵	東邦大学医療センター佐倉病院	阿 津 公 子	千葉県看護連盟
照 沼 理	東邦大学医療センター佐倉病院	板 倉 扶佐子	柏市医療公社医療センター
日 高 みえ子	社会医療法人社団木下会 千葉西総合病院	雨 宮 有 子	千葉県立保健医療大学
岡 迪 子	医療法人社団健老会 姉崎病院	田 中 敬 子	前原ハート訪問看護ステーション
平 野 すみ代	医療法人社団優仁会 鈴木神経科病院	中 村 明 枝	東京女子医科大学八千代医療センター
黒 川 一 美	医療法人社団庄和会 神崎クリニック	村 上 淳 子	望みの門訪問看護ステーション
井 上 映 子	城西国際大学 看護学部	廣 田 晶 子	学校法人葵会学園 葵会柏看護専門学校
小森谷 晶 子	国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院	竹 内 美佐子	医療法人社団 城東桐和会 タムス浦安病院
上 杉 英 生	国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院	杉 本 龍 子	個人会員
北 野 富美江	国立研究開発法人 国立がん研究センター東病院	後 藤 久美子	個人会員
川 名 圭 子	医療法人社団慶勝会 赤門整形外科内科	高 橋 厚 子	個人会員
吉 野 幸 子	医療法人社団慶勝会 赤門整形外科内科	大 澤 広 美	個人会員
出 口 和 美	医療法人社団慶勝会 赤門整形外科内科	柳 川 精 子	個人会員
井 上 幸 恵	医療法人社団慶勝会 赤門整形外科内科	保 坂 和 子	個人会員
増 田 政 代	医療法人社団慶勝会 赤門整形外科内科	平 野 佐代子	個人会員
中 村 澄 江	医療法人社団慶勝会 赤門整形外科内科	平 野 恵 美	個人会員
田 中 良 美	医療法人社団慶勝会 赤門整形外科内科	難 波 純	個人会員
花 嶋 有 紀	松戸市立福祉医療センター 東松戸病院	大 木 美友紀	個人会員
矢 野 麻 里	松戸市立福祉医療センター 東松戸病院	迎 涼 子	個人会員
中 本 かおり	松戸市立福祉医療センター 東松戸病院	鵜 野 澄 世	個人会員
松 丸 晴 子	松戸市立福祉医療センター 東松戸病院	佐 藤 博 美	個人会員
川 又 恵美子	松戸市立福祉医療センター 東松戸病院	林 垂紀子	個人会員
下 村 登志江	日本医科大学看護専門学校	溝 井 由 子	個人会員
松 本 喜久枝	日本医科大学千葉北総病院	長 崎 千恵子	個人会員
山 下 直 子	日本医科大学千葉北総病院	泉 水 たよ子	個人会員
岩 井 智 美	日本医科大学千葉北総病院	山 口 瑞 穂	個人会員
渡 辺 光 子	日本医科大学千葉北総病院	塩野谷 知 子	個人会員
田 岡 里 香	日本医科大学千葉北総病院	内 田 昌 江	個人会員
福 田 悦 子	日本医科大学千葉北総病院	糸 井 妙	個人会員
工 藤 万里子	いちかわ訪問看護ステーション	片 岡 恵美子	個人会員
棚 倉 亜希子	千葉県循環器病センター	石 井 すみ子	個人会員
仲 村 みゆき	千葉県循環器病センター	植 田 市 子	個人会員
石 井 宣 子	千葉県循環器病センター	前 田 稔	個人会員
長谷川 範 子	千葉県循環器病センター		計315名
牧 野 美緒子	千葉県循環器病センター		
宮 崎 智 雄	千葉県循環器病センター		
尾 藤 彰 子	公益社団法人地域医療振興協会 介護老人保健施設市川ゆうゆう		
小 俣 佳 子	医療法人社団誠馨会 セコマメディック病院		

(敬称略。施設名は、千葉県看護協会会員管理システムに登録された名称を記載。)

## 看護職員の表彰

### 1 叙勲その他国の表彰

#### 平成30年 秋の叙勲

瑞宝単光章 高梨 希子 元 国立大学法人 千葉大学医学部附属病院 看護部看護師長  
(現 医療法人社団福生会 齊藤労災病院 看護部長)

#### 令和元年 春の叙勲

瑞宝双光章 鎌田 良子 元 独立行政法人国立病院機構 東埼玉病院 看護部長  
(現 医療法人社団心和会 新八千代病院 看護部長)

瑞宝双光章 小池 文江 元 医療法人社団誠馨会 セコメディック病院 看護部長

瑞宝双光章 小谷美千子 元 公益財団法人柏市医療公社 柏市立柏病院  
看護担当副院長(兼)看護部長

瑞宝双光章 平山 享子 社会福祉法人晴山会 介護老人保健施設「晴山苑」 苑長

瑞宝単光章 河野 鈴子 元 国立大学法人 千葉大学医学部附属病院 看護部看護師長

瑞宝単光章 武田 峰子 元 学校法人 東京歯科大学市川総合病院 副看護部長

#### 厚生労働大臣表彰

##### 平成30年度公衆衛生事業功労者厚生労働大臣表彰

金子 恵子 元 千葉県香取健康福祉センター

##### 平成30年度母子保健家族計画事業功労者厚生労働大臣表彰

山根 容子 千葉市役所 保健福祉総務課



## 2 令和元年度千葉県看護功労者知事表彰（決定者）

安藤 京子	地方独立行政法人 総合病院国保旭中央病院
市川 智子	独立行政法人地域医療機能推進機構 船橋中央病院
伊藤 恵美	公益財団法人日産厚生会 佐倉厚生園病院
伊藤久美子	横芝光町立東陽病院
大木百合子	医療法人三省会 本多病院
影山 栄子	医療法人社団千葉医心会 介護老人保健施設ヴィラ大森
小賀坂好子	学校法人 帝京平成大学
小森恵美子	医療法人社団心和会 成田リハビリテーション病院
齊藤 静江	匝瑳市介護老人保健施設 そうさぬくもりの郷
篠塚 民江	社会福祉法人聖隷福祉事業団 聖隷佐倉市民病院
鈴木 浮子	学校法人 東京歯科大学市川総合病院
秦野 康子	君津中央病院企業団 国保直営総合病院 君津中央病院
三浦 亮子	国立研究開発法人 国立国際医療研究センター国府台病院
若菜 幸子	国立大学法人 千葉大学医学部附属病院
和田 弘子	船橋市立医療センター

## 3 2019（令和元）年度日本看護協会会長表彰

伊藤 淳子	船橋市立医療センター
尾出真理子	元 千葉県がんセンター
田邊 悦子	社会福祉法人太陽会 安房地域医療センター
西方 恭子	医療法人社団協友会 船橋総合病院
村杉 由美	長生郡市広域市町村圏組合 公立長生病院

# I 教育・研修等による看護の質の向上に関する事業 看護職員の資質向上に関する事項

## 1 生涯教育

(1) 生涯教育の実施状況(平成30年度生涯教育研修参加状況表参照)

30年度は、協会主催研修55コース(内新規研修9コース、トピックス研修1コース)、千葉県委託事業研修10コース(内新人看護職員研修、新人助産師研修は実習有を含みそれぞれ2コースとした。新規研修1コース)、で65コース開催した。受講者数は7,321名(29年度8,197名)。全体の受講率は91.6%で、資格教育受講数581名(93.9%)、ステップアップ教育受講者数3,956名(98.7%)、看護実践教育受講者数2,784名(82.7%)であった。

教育計画のカテゴリー別実施状況の内訳は以下のとおりである。

① 資格認定教育	9コース	581名
・ 認定看護管理者制度教育課程		
ファーストレベル教育課程(28日)		92名
セカンドレベル教育課程(38日)		27名
・ 医療安全管理者養成研修(7日)		97名
・ 心肺蘇生法トレーニングコース(BLS)		215名
・ 心肺蘇生法トレーニングコース(ACLS)		36名
・ 心肺蘇生法トレーニングコース(PEARS)		22名
・ 訪問看護師養成講習会		23名
☆保健師助産師看護師実習指導者講習会(特定分野7日)		40名
☆喀痰吸引等指導者講習会		29名
② ステップアップ教育	23コース	3,956名
・ 段階別研修(新人、2年目、中堅、管理者等)		3,485名
・ 医療経済と地域包括ケア(公開研修 看護管理者研修-1日目)		48名
・ 領域別研修(感染、災害、がん、糖尿病等)		471名
・ 糖尿病患者のセルフケア支援～糖尿病性腎症の重症化予防		57名
・ 看護研究Ⅲ		(5組)12名
③ 看護実践教育	33コース	2,784名
・ 助産実践能力向上研修		24名
・ タイムマネジメント～ワークもライフも生き生きと！～		71名
・ その人らしい生き方を支える意思決定支援 ～療養者へ寄り添うために～		113名
・ 感染症危機管理研修～新興・再興感染～		79名
・ 高齢者施設における感染管理		56名
・ 多職種連携による退院支援(公開研修 訪問看護師養成講習会-2日目)		32名
・ トピックス研修 多職種連携による退院支援		65名
・ ☆認知症対応能力向上研修		55名
④ 千葉県委託事業研修(再掲)は8研修10コース実施。 ☆千葉県委託事業研修		

(2) まとめ

- ・ 全受講者数は7,321名(29年度8,197名)。全体の受講率は91.6%であった。(29年度より0.9ポイント減少)
- ・ 30年度は社会のニーズや会員のニーズに対応するため、新規研修11コース開催した。
- ・ 「看護研究Ⅲ」はこれまで研究に関する研修は机上の内容が中心であったが、実際の現場に入り込んだ研究支援を行う目的で企画した。応募は5組12名であったが、現場の実情に合わせた個別的な指導を受け、30年度第37回千葉県看護研究学会の発表には1題が発表された。
- ・ 「糖尿病患者のセルフケア支援～糖尿病腎症の重症化予防～」は国や県が取り組んでいる糖尿病腎症の重症化予防の施策を反映して開催した。受講者にとっては新たな知識を学ぶ必要性を感じた研修であり、アンケート結果からは現場での活用度は92.3%、研修の満足度は90.4%であった。また「看護の力で重症化予防ができることを改めて実感した」という声もあった。
- ・ 「タイムマネジメント～ワークもライフも生き生きと～」は、看護業務の時間の有効活用を促しワーク・ライフ・バランスを推進したいという常任委員会からの意向を受けて開催した。「自分を褒めワークとライフを楽しんでいきたい」といった感想が聞かれ、社会情勢や医療の現状に即した研修は今後も継続して企画していきたい。
- ・ 訪問看護師養成講習会の公開研修として開催した「多職種連携による退院支援」は、定員15名を大幅に超える143名の応募があり32名の受講者を受け入れた。会員のニーズにこたえるためトピックス研修として別途開催し、100名募集、65名の応募があり合計97名の受講へと結びついた。
- ・ 30年度は生涯教育研修計画を冊子からタブロイド判へ書式を変更し、紙面での説明文を簡略化、ホームページで詳細説明するようになった。





## 2 第37回千葉県看護研究学会

### (1) 目的

看護活動の取り組みを研究として発表し、成果や課題を各施設間で共有することで看護の資質向上を図る。

### (2) テーマ「日々の実践を看護研究につなげる」

### (3) 日時 平成31年2月27日（水）9：25～16：00

### (4) 場所 アパホテル&リゾート<東京ベイ幕張ホール>

### (5) プログラム

① 開会式 9：25～9：55 第36回最優秀賞・優秀賞表彰式

② 特別講演 10：00～11：30

・テーマ「看護実践から看護研究につなげる -"わかる"ことの楽しさ発見-

・講師 淑徳大学 看護栄養学部 教授 茂野香おる氏

③ 研究発表 12:50～15:40 口演 32題 示説 14題 合計 46演題

④ 看護研究支援 13:30～15:30（相談件数11件、相談者13名、文献検索2名）

### (6) 総参加者数 総数410名（一般参加者347名、関係者等63名）

### (7) まとめ

- ・千葉県看護研究学会の演題申込み数は、46演題であった。（29年度44演題）。

参加者募集についてはホームページやポスター等で参加を呼び掛け、さらに再募集も行ったが、広報時期が前年度より遅れたこともあり、一般参加者数は347名で29年度より18名少なかった。

- ・今年度は学会一般参加者にもアンケートを実施した。参加者は看護職のみで他職種の参加はなかった。経験年数は15年以上（35%）、次いで5年未満（27%）であった。学会参加は「初めて」（72%）、参加動機は「自身の発表のため（共同研究含む）」（47%）が最も多かった。参加者の満足度は96%が「期待に沿っていた」と回答していた。

今後は初参加で発表する会員には、わかりやすい説明を行い、より多くの発表につないでいくことや、発表経験者には次のステップとして外部の研究発表につないでいく支援を検討していきたい。

- ・座長9名のアンケートからは質疑応答の活性化（質問時間、方法、内容等について）、協力員16名のアンケートからは示説の方法やポスター作成基準、発表時の待機方法などについて課題があげられた。
- ・看護研究支援は5名体制（支援講師4名、司書1名）で実施した。

相談件数は11件（29年度17件）。

看護研究支援を受けた参加者アンケート結果（回収率54.5%）から、研究支援動機として「現在研究に着手しているが進め方に悩み参加した」が半数、具体的な支援内容は、研究デザイン、計画書の作成方法、図表の作成等についてであった。相談者は全員が「期待に沿っていた」と回答していた。

回収率は低かったが、今後の研究支援に結び付く内容であり、継続をしていきたい。

## Ⅱ 看護師等の労働環境等の改善、就業促進等による看護師等の人材確保・定着に関する事業

### 1 看護職のワーク・ライフ・バランス推進事業

#### 平成30年度 看護職のWLB推進フォローアップワークショッププログラム

(1) 目的：取組み2年目施設の進捗状況について、情報を共有すると共に意見交換を行い、次年度以降の各施設における取組み課題を明確にする。

(2) 開催日時：平成31年2月18日（月）13時30分～16時00分

(3) 開催会場：千葉県看護会館2階大研修室

(4) 参加者：参加施設、ワーク・ライフ・バランス推進部会委員(支援者、推進者)及び事務局、傍聴者等

(5) 内 容 司会：内山理事

時 間	内 容	担 当
13：30～13：35	オリエンテーション	内山理事
13：35～13：55	WLB今年度の取組みについて	山田WLB推進 アドバイザー
13：55～14：10 14：10～14：25 14：25～14：40  〈各施設15分〉	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">取組み2年目施設の進捗状況について</div> 1.最成病院 2.君津中央病院 3.セコメディック病院 —報告内容— ①病院概要 ②推進体制づくり ③アクションプラン ④アクションプランの実施状況 ⑤次年度に向けての取組み計画、課題	
14：40～15：00	総 評	WLB推進部会 澤田専務
15：00～15：10	休 憩	
15：10～16：00 講義40分 質疑応答10分	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">事例発表</div> 「アクションプランから成果に繋げるプロセス ～東京湾岸リハビリテーション病院の取組みから～」 ※超過勤務削減・就業規則周知・有給休暇取得促進等	伊東WLB推進 アドバイザー

## 2 看護進路相談事業

### ふれあい看護体験事業

- (1) 目的 中・高校生等が病院や介護施設において、看護師の看護実践場面の見学や体験をとおして看護を実感することにより、看護についての関心を高め、理解を深めることにより看護を志す人材を確保する。
- (2) 実施期間 平成30年5月～平成31年3月
- (3) 協力施設 105施設
- (4) 実施施設 99施設（延181施設）
- (5) 参加人数 1,677名
- (6) 実施内容 ① 看護についての説明 ② 院内見学  
③ ベッドメイキング ④ 清拭、手浴、足浴等清潔の介助  
⑤ 移動の介助（車椅子移動） ⑥ 食事介助  
⑦ バイタルサイン測定 ⑧ 看護に係わる進路相談等
- (7) 参加者の感想
- ・チームワークの大切さがわかった。
  - ・チームとしての医療について、素晴らしいと思った。
  - ・治療のみではなく、コミュニケーションを通して心のケアもしていることがわかった。
  - ・体験が大学受験に向けて参考になった。
- (8) 受入施設の感想
- ・指導者として実習に関わる予定のスタッフや2年目看護師が担当となり、成長できた。
  - ・中学生ならではの質問を受けて新鮮だった。改めて、自分がなぜ看護師をやっているのかを考える機会となった。
  - ・看護師志望の参加者がほとんどであるためか、実際に看護の現場に接し、豊かな感性で看護のすばらしさをあらためて知った様子であった。
  - ・医師にも積極的に質問していた。

まとめ：平成29年度と比較して実施施設は12施設、参加者は165名の増加となっている。

・今後も、協力施設と参加希望者に対しては、看護職を目指す学生等が増えるように努めていく。

### 進路相談事業

- (1) ナースセンターにおける進路相談

項目	一般	高校	中学	教員	保護者	その他	計	H29年度
電話相談	26	6	0	2	4	12	50	33
面談	7	0	0	0	0	5	12	0
メール	5	1	0	0	0	0	6	7
FAX・郵便	0	0	0	0	0	0	0	0
合計(件)	38	7	0	2	4	17	68	40
H29年度	16	4	0	8	5	7	40	

まとめ：相談件数は、平成29年度の40件に比べ、全体で28件増加した。相談者のうち、一般（社会人）からの相談は、平成29年度の16件に比べ22件増加し顕著であった。

・平成29年度、来所相談は無かったが、今年度は12件あり、生活に合わせた、より具体的な相談を望み来所したと考える。

- (2) 出前授業

No.	学校名	実施日	参加者数	No.	学校名	実施日	参加者数	No.	学校名	実施日	参加者数
1	千葉市立越智中学校	6/11	50	11	千葉市立誉田中学校	10/30	160	21	千葉市立積橋中学校	2/15	75
2	銚子市立第六中学校	7/3	70	12	千葉市立磯辺中学校	11/2	175	22	柏市立柏第三中学校	3/1	113
3	東金市立東中学校	7/13	140	13	横芝光町立横芝中学校	11/16	108	23	東葉高等学校	7/9	10
4	東海大学付属浦安高等学校・中等部	7/14	40	14	横芝光町立光光中学校	11/20	100	24	千葉県立市原緑高等学校	7/19	350
5	東金市立西中学校	9/7	106	15	千葉市立さつきが丘中学校	11/22	103	25	銚子市立銚子高等学校	9/12	37
6	四街道市立千代田中学校	9/20	140	16	柏市立柏中学校	12/11	138	26	千葉県立八千代高等学校	10/16	37
7	千葉市立こてはし台中学校	9/28	145	17	千葉市立高洲第一中学校	12/18	124	27	千葉県立津田沼高等学校	10/19	20
8	柏市立柏中学校	10/12	155	18	柏市立土中学校	1/15	74	28	千葉商科大学付属高等学校	10/23	279
9	東金市立西中学校	10/26	91	19	山武市立松尾中学校	2/5	64	29	千葉県立千葉女子高等学校	12/12	50
10	千葉市立草野中学校	10/30	175	20	市川市立福栄中学校	2/5	60	30	千葉県立鎌ヶ谷西高等学校	12/18	779
合 計											3,968

まとめ：平成29年度と比較し、実施回数10回、参加人数1,257名

増加した。これは、中学校等養護教諭間の口こみによる増加となっている。

・講師は学校の要望に合わせ、具体的な内容の講義や質問が出やすいような工夫をして生徒の理解を深めるように努めており、学校側からは好評を得ている。

### 3 ナースセンター事業

#### (1) 看護職の職業紹介事業

ナースセンター登録状況

##### ① 新規求職者数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
保健師	8	3	2	5	5	3	4	8	2	9	4	10	63
助産師	3	0	1	3	3	3	3	0	1	0	0	1	18
看護師	57	44	50	43	47	71	65	49	44	41	39	84	634
准看護師	7	6	3	2	5	6	3	3	4	2	7	12	60
未記入	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
合計	75	53	58	53	60	83	75	60	51	52	50	107	777

##### ② 求人数

	保健師	助産師	看護師	准看護師	合計(名)
病院	0	15	628	13	656
診療所	2	0	138	22	162
訪問看護ステーション	0	0	115	1	116
介護保健施設等	0	0	193	18	211
社会福祉施設等	0	0	20	1	21
県・市・町・村	21	6	6	0	33
事業所等	5	0	10	19	34
学校等	1	2	41	0	44
その他	17	0	56	10	83
合計	46	23	1,207	84	1,360

(平成31年3月末現在)

まとめ：新規求職者は前年度より149名、3月末現在の求人数は、前年度と比べ121名増加した。

就業相談推進アドバイザーによる求人施設訪問、ハローワーク出張相談、プラチナナース研修会、各種研修会や合同就職説明会等での登録勧奨の呼びかけが求人・求職者ともに登録に繋がっていると思われる。

#### (2) 届出制度(平成30年4月1日～平成31年3月31日) (名)

届出者 1026 (うち代行届者613 代行届出率59.7%)					
就業意思があると思われる者 481(46.9%)		左記以外の者 545(53.1%)			
内訳	すぐに復職したい	43	内訳	就業者(看護師等)	372
	いずれ復職したい	111		就業者(看護師以外)	34
	未定等	327		その他	139

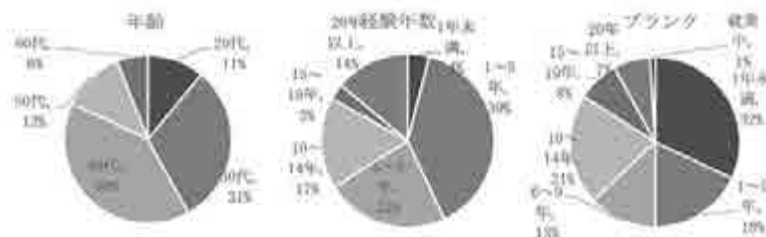
まとめ：届出については代行届の割合が59.7%で全国(30%)と比較し29.7ポイント高く、看護管理者の協力は得られていると言える。しかし、届出をしているという本人の自覚は乏しく、連絡が取れないことが多く、届出者への支援に結びつかない状況にある。届出からeナースセンターへの登録勧奨につなげる方法を検討する必要がある。

#### (3) 看護基礎技術講習会

目的：採血・注射法、吸引についての基本的知識やシミュレーターを用いた技術演習を通して、安全に配慮した看護技術を再確認し、復職への足掛かりとする。

参加状況：参加者72名 就業者44名 就業率61.1%

参加者の背景





まとめ：参加者の背景では、経験年数1～5年の40歳代が最も多い。妊娠・出産等のライフイベントにより離職し、子育てが落ち着いたタイミングで再就業を考え、参加している。

ブランクでは、1年未満が最も多く、その受講動機は、看護技術を確認したいが主なものであった。求職者は、安全で安心な看護を提供したい、あるいは、新たな職域に挑戦したいと考え、参加していた。

就業率は61.1%と高く、再就業への足掛かりとなっている。講習会後の就業相談において見学の日程を決める等のタイムリーな対応が就業に繋がっている。

講習会は、少人数制（2～3名）であり、参加者に応じたきめ細かな演習の指導により、看護技術への不安感の軽減に役立っている。

#### (4) 看護職の定着確保にかかる調査

##### ① 看護職の定着確保動向調査

調査目的：看護職の定着確保対策の一環として、毎年、新人看護職の現状や、離職中の看護職の就業意向や希望する勤務条件、さらに、病院における看護職の需給動向や教育研修体制、労働条件、定着確保対策を把握し、今後の看護職の定着確保対策の基礎資料とする。

調査対象及び調査方法、調査期間

調査対象	調査方法	調査期間
県内病院の看護管理者	返信用封筒を同封した調査票を郵送・回収	平成30年7月3日～平成30年7月17日
千葉県看護協会主催のフレッシュセミナー受講生	フレッシュセミナーにて調査票を配布・回収	平成30年10月15, 16, 17, 18, 19, 22, 23, 24, 25, 26日
千葉県ナースセンターに登録の未就業看護職	返信用封筒を同封した調査票を郵送・回収	平成30年10月17日～平成30年10月31日

#### 調査結果の概要

##### ア. 県内病院の看護管理者

対象施設数：287施設 回収数：178施設（回収率：62.0%）

##### (ア) 施設の所在地

千葉	市原	船橋	市川	松戸	東葛	印旛	利根	山武	長夷	君津	安房	無回答
32	6	31	13	9	18	18	14	7	9	12	9	0
18.0%	3.4%	17.4%	7.3%	5.1%	10.1%	10.1%	7.9%	3.9%	5.1%	6.7%	5.1%	0.0%

##### (イ) 許可病床数及び回答率

病床数	99床以下 (n=90)	100-199 (n=89)	200-299 (n=43)	300-399 (n=31)	400-499 (n=19)	500床以上 (n=15)
回答施設数	36	64	27	22	16	13
回答率	40.0%	71.9%	62.8%	71.0%	84.2%	86.7%

##### (ウ) 入退院支援及び地域連携を担う部門

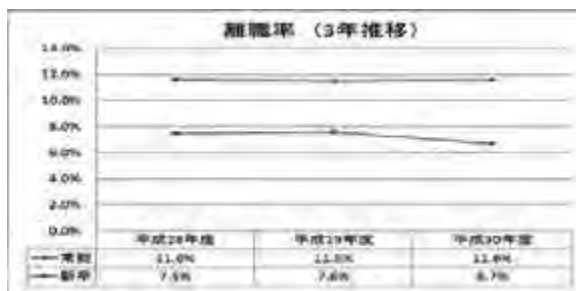
あり	なし	無回答
138	35	5
77.5%	19.7%	2.8%

##### (エ) 平成29年度1年間に、在宅患者訪問看護・指導料の算定実績

あり	なし	無回答
50	122	6
28.1%	68.5%	3.4%

(オ) 常勤看護職員の離職率 11.6%

(カ) 新卒看護職員の離職率 6.7%



(キ) 規模別 離職率

	99床以下	100-199	200-299	300-399	400-499	500床以上
常勤	12.1%	12.7%	10.4%	13.6%	10.7%	11.6%
新人	11.8%	8.1%	3.9%	9.7%	6.9%	6.3%
新人採用延べ人数	19	58	227	160	442	861
新人採用有施設数	11	13	24	16	16	13
1施設あたりの平均人数	1.7	4.5	9.5	10.0	27.6	66.2

(ク) a. 看護職員の超過勤労働を減らす具体的な対応策 (複数回答)

対策している (n= 154)								対策していない	無回答
	看護職員の増員	看護職員以外の職員の増員	看護職員の業務分担の見直し	看護職員と他職種との業務調整	業務量に応じた柔軟な人員配置	その他	特になし		
154	71	54	125	95	95	10	0	22	2
86.5%	46.1%	35.1%	81.2%	61.7%	61.7%	6.5%	0.0%	12.4%	1.1%

b. 規模別 看護職員の超過勤労働を減らす具体的な対応策

	99床以下 (n=36)	100-199 (n=64)	200-299 (n=27)	300-399 (n=22)	400-499 (n=16)	500床以上 (n=13)	病床数不明	無回答
対策している	25 69.4%	54 84.4%	26 96.3%	19 86.4%	15 93.8%	12 92.3%	3	2
対策していない	9 25.0%	9 14.1%	0 0.0%	2 9.1%	1 6.3%	1 7.7%		

(ケ) 多様な勤務形態導入状況 (複数回答)

導入している (n= 120)											導入していない	無回答
	フレックスタイム	ワーク・シェアリング	時差出勤終業	在宅勤務	学期間労働	期間限定労働時間短縮	年間労働時間契約制	圧縮労働時間制	短時間正規職員制度	その他		
120	18	2	68	0	7	9	4	3	64	10	58	0
67.4%	15.0%	1.7%	56.7%	0.0%	5.8%	7.5%	3.3%	2.5%	53.3%	8.3%	32.6%	0.0%

(コ) 育児・介護休業法の改正に伴う取り組み

取り組んでいる (n= 161)							取り組んでいない	無回答
	看護職員の増員	看護職員以外の職員の増員	看護職員の業務分担の見直し	看護職員と他職種との業務調整	業務量に応じた柔軟な人員配置	その他		
161	66	38	88	53	112	25	15	2
90.4%	41.0%	23.6%	54.7%	32.9%	69.6%	15.5%	8.4%	1.1%

(サ) 看護職員の卒後の教育研修体制

a. 教育部門の教育研修責任者の配置状況

配置あり					配置なし
	専従	専任	両方	無回答	
133	32	100	0	1	45
74.7%	18.0%	56.2%	0.0%	0.6%	25.3%

b. 規模別 配置状況

	99床以下 (n=36)	100-199 (n=64)	200-299 (n=27)	300-399 (n=22)	400-499 (n=16)	500床以上 (n=13)
配置あり	16	45	23	21	15	13
	44.4%	70.3%	85.2%	95.5%	93.8%	100.0%
配置なし	20	19	4	1	1	0
	55.6%	29.7%	14.8%	4.5%	6.3%	0.0%

c. 各部署(看護)単位の教育研修担当者(プリセプターを除く)配置状況

全ての部署で配置			一部の部署で配置			配置していない	無回答
	平均人数	平均部署数		平均人数	平均部署数		
106	7.1	6.4	25	5.5	5.7	45	2
59.6%			14.0%				

d. 新卒看護職員の教育研修体制について

	業務に支障なく研修を受講できる人員配置	看護部門に教育研修責任者を配置	各部署に教育研修担当者を配置	病院間連携による教育研修の実施	教育研修担当者の資質向上のための支援	教育研修担当者の業務量への配慮	その他
すでに取り組んでいる	101	93	102	53	96	62	0
	56.7%	52.2%	57.3%	29.8%	53.9%	34.8%	0.0%
取り組みの拡充・新たに開始予定	3	7	4	5	7	11	0
	1.7%	3.9%	2.2%	2.8%	3.9%	6.2%	0.0%

e. 全看護職員の卒後研修体制のシステム化状況

システム化されている	システム化されていない	検討中	無回答
84	60	33	1
47.2%	33.7%	18.5%	0.6%

f. クリニカルラダー(キャリア開発ラダー) 導入状況

導入している	導入していない	検討中
80	65	33
44.9%	36.5%	18.5%

g. 規模別 クリニカルラダー(キャリア開発ラダー)導入状況

	99床以下 (n=36)	100-199 (n=64)	200-299 (n=27)	300-399 (n=22)	400-499 (n=16)	500床以上 (n=13)
導入している	7	22	16	12	12	11
	19.4%	34.4%	51.6%	54.5%	75.0%	84.6%
導入していない	21	27	6	8	2	1
	58.3%	42.2%	19.4%	36.4%	12.5%	7.7%
検討中	8	15	5	2	2	1
	22.2%	23.4%	16.1%	9.1%	12.5%	7.7%

(シ) メンタルヘルスに対する相談体制

a. 導入状況

導入している	導入していない	検討中	無回答
141	19	18	0
79.2%	10.7%	10.1%	0.0%

b.相談体制（複数回答）



(ス) ナースセンターの事業について

a.ナースセンターの無料職業紹介の利用

している	していない	無回答
104	73	1
58.4%	41.0%	0.6%

(セ) 届出制度

a.離職者へ説明

している	していない	無回答
156	20	2
87.6%	11.2%	1.1%

- まとめ：・離職率は昨年度と比べ、常勤看護職員は0.1ポイント増、新卒看護職員は0.9ポイント減となったが、規模別で見ると99床以下の新卒看護職員は11.8%で県全体の離職率と比べ5.1ポイント高い。
- ・「看護職員の超過勤労働を減らす具体的な対応策」について、対策している施設は県全体で86.5%であった。規模別では、99床以下は69.4%であり、100床を超える施設は8割から9割が対策をしていた。
  - ・教育研修体制のうち、教育研修責任者の配置状況は県全体で74.7%だが99床以下では44.4%と低い。また、「クリニカルラダー(キャリア開発ラダー)導入状況」については、導入している施設は県全体で44.9%であった。規模別では99床以下19.4%、100床以上-199床以下34.4%と平均を下回っている。

イ. 千葉県看護協会主催のフレッシュセミナー受講中の看護職

対象数：1,232名 回収数：1,187名（回答率：96.3%）

(ア) 性別

女性	男性	無回答
1,059	127	1
89.2%	10.7%	0.1%

(イ) 卒業した看護師等学校養成所

大学院	大学	看護学校	保健師学校	助産師学校	准看護師学校	その他	無回答
8	429	662	1	9	24	19	42
0.7%	36.1%	55.8%	0.1%	0.8%	2.0%	1.6%	3.5%

※2箇所回答（7名）含む

その他

<input type="checkbox"/> 5年一貫校	<input type="checkbox"/> 短期大学	<input type="checkbox"/> 看護保健学科
<input type="checkbox"/> 高校課程5年	<input type="checkbox"/> 高等専門学校	<input type="checkbox"/> 幕張総合高校看護科

## (ウ) 職種

保健師	助産師	看護師	准看護師	無回答
14	24	1,073	33	58
1.2%	2.0%	90.4%	2.8%	4.9%

## (エ) 勤務形態

常勤	非常勤	無回答
1,171	2	14
98.7%	0.2%	1.2%

※2箇所回答(15名)含む

## (オ) 現在の就業施設の所在地

千葉	市原	船橋	市川	松戸	東葛	印旛	利根	山武	長夷
220	63	224	33	50	62	139	68	11	20
18.5%	5.3%	18.9%	2.8%	4.2%	5.2%	11.7%	5.7%	0.9%	1.7%

君津	安房	県外	無回答
63	161	0	73
5.3%	13.6%	0.0%	6.1%

## (カ) 施設規模・施設等

病院							無床診療所	有床診療所	市町村
20~99床	100~199床	200~299床	300~399床	400~499床	500床以上	床数不明			
12	100	137	245	237	345	77	0	1	1
1.0%	8.4%	11.5%	20.6%	20.0%	29.1%	6.5%	0.0%	0.1%	0.1%

健康福祉センター	訪問看護ステーション	介護保健施設	社会福祉施設	その他	無回答
0	1	1	0	0	30
0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	2.5%

## (キ) 辞めたいと思ったことの有無

ある	ない	無回答
861	321	5
72.5%	27.0%	0.4%



## 施設規模・施設等

(n=861)

病院							無床診療所	有床診療所	市町村
20~99床	100~199床	200~299床	300~399床	400~499床	500床以上	床数不明			
8	71	98	193	173	237	56	0	1	0
66.7%	71.0%	71.5%	78.8%	73.0%	68.7%	72.7%	0.0%	100.0%	0.0%

健康福祉センター	訪問看護ステーション	介護保健施設	社会福祉施設	その他	無回答
0	0	1	0	0	23
0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	76.7%

## (ク) 辞めたいと考えた理由 (複数回答)

勤務時間内に仕事が終わらない	489	41.2%
自分は看護職に向いていないのではないかと思う	480	40.4%
医療事故を起こさないか心配である	424	35.7%
配属部署の専門的な知識や技術が不足している	420	35.4%
基本的な技術が身についていない	356	30.0%
自分のペースで仕事ができない	324	27.3%
自分の看護が患者のニーズにこたえているか自信がない	307	25.9%
仕事の優先順位が付けられない	301	25.4%
職場の先輩に質問しづらい	248	20.9%
看護職を辞めたいと思っている	247	20.8%
就職前に考えていた看護の仕事とギャップが大きい	238	20.1%
与えられる課題等があって休日に休めない	234	19.7%
ヒヤリハットレポートを書いた	232	19.5%
看護業務以外の業務が多すぎると感じる	207	17.4%
職場の雰囲気になじめない	204	17.2%
受け持ち患者が多すぎる	194	16.3%
プリセプターと合わない	129	10.9%
十分な教育研修が受けられていないと感じる	127	10.7%
医師との意思疎通がうまくいかない	114	9.6%
患者及び家族とのコミュニケーションがうまくとれない	93	7.8%
直属の上司からサポートが得られない	93	7.8%
電話の対応がうまくできない	88	7.4%
プリセプターからの1人立ちが早いと感じる	84	7.1%
夜勤に入るのが早いと感じる	76	6.4%
交代制の勤務に慣れない	52	4.4%
院内のITシステムがうまくいかない	41	3.5%
夜勤のリーダー業務が負担である	13	1.1%
無回答	20	1.7%

## (ケ) 辞める事を思いとどまった理由 (複数回答)

生活していくための手段	406	34.2%
自分なりに整理がついたから	191	16.1%
収入が安定しているから	187	15.8%
同僚に相談し、再度やる気になったから	148	12.5%
職場環境が仕事をしやすい環境だったから	89	7.5%
目的・目標を持てたから	45	3.8%
師長等中間管理職に相談し、再度やる気になったから	41	3.5%
上司に認めてもらえたから	34	2.9%
看護管理者が尊敬できたから	29	2.4%
仕事にいきがいを感じたから	27	2.3%
給料が仕事に見合っていたから	18	1.5%
研修の機会が用意されたから	7	0.6%
結婚・出産・育児に家族の協力が得られたから	7	0.6%
その他	103	8.7%

## その他

○奨学金返済のため	○辞める勇気なし、言えない	○辞めたいが辞められない
○いつまでと期限を決めている	○看護師が夢だったから	○親、友人、同僚、先輩等に相談
○他の支えがある	○患者さんとの関わり	○親に高い学費出させ心配させたくない
○部署等の異動	○次の仕事が決まらない	○仕事が楽しい

## (コ) 社会人経験について

ある	ない	無回答
220	954	13
18.5%	80.4%	1.1%

## (サ) 社会人経験者で辞めたいと考えたことがある者

ある	ない	無回答	(n=220)
158	62	0	
71.8%	39.2%	0.0%	

## (シ) 社会人経験者の辞めたいと考えた理由 上位(複数回答)

自分は看護職に向いていないのではないかと思います	82	37.2%
配属部署の専門的な知識や技術が不足している	78	35.4%
勤務時間内に仕事が終わらない	76	34.5%

まとめ：辞めたいと思ったことのある受講生は861名(72.5%)であり、規模別では 300～399床の在籍者が78.8%、400～499床 73.0%、200～299床 71.5%が上位であった。

フレッシュセミナー受講者のうち社会人経験者は220名であった。うち、158名(71.8%)が辞めたいと思ったことがあり、その理由は、「自分は看護職に向いていないのではないか」37.2%、「配属部署の専門的な知識や技術が不足している」35.4%、受講生全体で第1位の「勤務時間内に仕事が終わらない」は34.5%で第3位であった。

## ウ. 千葉県ナースセンターに登録の未就業看護職

対象数：197名 回収数：53名(回収率：26.9%)

## (ア) 年齢

20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60歳以上	無回答
0	5	14	15	13	3	3
0.0%	9.4%	26.4%	28.3%	24.5%	5.7%	5.7%

## (イ) 離職時の職種

保健師	助産師	看護師	准看護師	無回答
4	1	44	2	2
7.5%	1.9%	83.0%	3.8%	3.8%

## (ウ) 看護業務の通算勤務年数

1年未満	1～3年	4～6年	7～9年	10～14年	15～19年	20年以上	無回答
2	2	9	8	8	13	11	0
3.8%	3.8%	17.0%	15.1%	15.1%	24.5%	20.8%	0.0%

## (エ) ブランク期間

0～3年	4～5年	6～10年	11年以上	無回答
38	5	5	4	1
71.7%	9.4%	9.4%	7.5%	1.9%

## (オ) 離職時の雇用形態

正規職員	非常勤職員	派遣	無回答
35	16	0	2
66.0%	30.2%	0.0%	3.8%

## (カ) 離職理由(複数回答)

人間関係	結婚	出産育児 子供のため	配偶者の 転勤	健康上の 理由	看護内容 への不満	転居	夜勤回数 が多い	老親の世話 家族の介護	通勤困難
14	12	11	10	7	6	5	5	5	4
26.4%	22.6%	20.8%	18.9%	13.2%	11.3%	9.4%	9.4%	9.4%	7.5%
家事と両立 しない	契約期間 満了	他分野 への興味	継続教育 がない	定年退職	労働時間 への不満	自分の適正 能力への不安	Uターン のため	賃金 への不満	残業量 が多い
4	3	3	3	2	2	1	1	1	1
7.5%	5.7%	5.7%	5.7%	3.8%	3.8%	1.9%	1.9%	1.9%	1.9%

進学	看護職に向いていない	福利厚生が十分でない	休みが取れない	その他	無回答
1	0	0	0	4	1
1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	7.5%	1.9%

その他  
 会社による都合     外来通院との両立が困難     家族の急病時に休めない職場体制

(キ) 就業条件 (複数回答)

休みがとりやすい	柔軟な勤務形態の導入	通勤に便利な職場	超過勤務が少ない	自分の希望する給与	夜勤がない	介護休暇がとれる	自分の能力が活かせる	継続教育が充実している	保育所がある(夜間保育含む)
31	23	18	14	10	9	6	6	6	5
58.5%	43.4%	34.0%	26.4%	18.9%	17.0%	11.3%	11.3%	11.3%	9.4%

育児制度が利用できる	希望する看護領域である	夜勤回数が少ない	看護内容が充実している	資格取得支援がある	無回答
5	5	2	2	2	1
9.4%	9.4%	3.8%	3.8%	3.8%	1.9%

まとめ：離職理由の第1位は人間関係 (H29 第5位)、第2位は結婚 (H29 第3位)、第3位は出産育児子供のため (H29 第1位) であった。

未就業看護職の就業条件では、第1位「休みがとりやすい」(H29 第1位)、第2位「柔軟な勤務形態の導入」(H29 第3位)、「通勤に便利な職場」(H29 第2位) であった。

②看護職の再就業者実態調査

調査目的：ナースセンター事業において再就業した者の実態を把握し、今後の再就業促進に向けた支援方法のあり方を検討する。

調査対象及び調査方法、調査期間

調査対象	調査方法	調査期間
平成29年度千葉県ナースセンター登録者の再就業者 (県外からの登録者と臨時雇用者を除く)	返信用封筒を同封した調査票を郵送により配付	平成30年9月19日～10月5日

調査結果の概要

対象者数：177名      回答者数：77名 (回答率43.5%)

(ア) 回答者居住地区    n=77

	千葉	市原	船橋	市川	松戸	東葛	印旛
(名)	29	1	11	3	8	5	8
(%)	37.7	1.3	14.3	3.9	10.4	6.5	10.4
	利根	山武	長夷	君津	安房	県外	無回答
(名)	2	2	2	4	0	1	1
(%)	2.6	2.6	2.6	5.2	0	1.3	1.3

(イ) 性別    n=77

	女性	男性
(名)	76	1
(%)	98.7	1.3

(ウ) 年齢    n=77

	20代	30代	40代	50代	60代
(名)	6	20	24	18	9
(%)	7.8	26.0	31.2	23.4	11.7